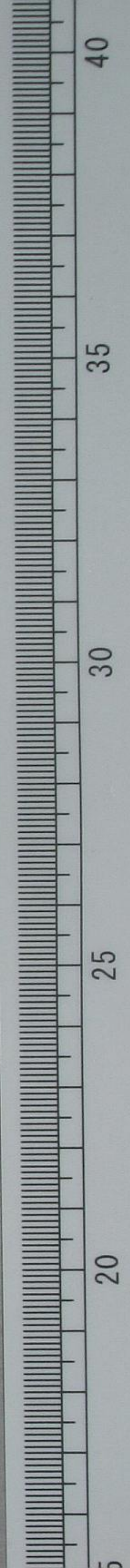




偶評
 今體名家文抄
 上居光華編選
 二三

柳田文庫
 文庫11
 A1395
 2



文庫11
A 1395
2

柳田泉文庫

偶評 今體名家文抄卷之二

土居光華編選

自由交易論

西村茂樹

問答ヲ以テ
起ル公羊傳
ヨリ脱化シ
来ルモノカ
自由交易論ハ何事ヲ論ズル自由交易ハ國ニ害
アルヲ論ズルナリ何レハ國ニ害アル今日ハ我
日本帝國ニ害アルナリ凡ソ天下至妙ノ論ハ至
近ノ理ヲ離レズ若シ至近ノ理ヲ離ル者ハ必
ズ正論ニ非ズ父母ニ事ルニ孝ヲ盡スベキトハ
至近ノ理ニシテ無學ノ野人モ能ク之ヲ知ル者



今體名家文抄卷之二

此邊行文双
關法ヲ用ユ
漢文公原毀
篇ヲ讀ム如
シ

アリ、聖人起テ父母ニ事フルノ道ヲ論ズルモ、遂ニ孝ノ外ニ出ル能ハズ。國ヲ富スニ、貨幣ハ濫出ヲ防グハ、至近ハ理ニシテ、白面ハ書生モ能ク之ヲ言フ。智者起リテ、經濟ノ道ヲ論ズルモ、遂ニ貨幣ハ濫出ヲ以テ是ナリトスルハ、能ハザルベシ。世ノ自由交易ヲ主張スル者ハ、大抵皆英國ノ自由交易ヲ行ヒテ、其國ノ富盛ナルヲ見テ、我國ニモ亦之ヲ行フベシト思ヘルナルベシ。夫レ英國ト我邦ト交易上ノ事ヲ比較スルニ、一モ相似タル者ナシ。英國ハ自ラ進シテ交易ヲ開キシ者ナ

リ、我國ハ米人自逼ラレ、止ムルヲ得ズシテ之ヲ開キシ者ナリ。英國ノ民ハ心計ニ長シ、工作ニ巧ナリ。我國ノ民ハ心計ニ短ク、工作ニ拙シ。英國ハ土地開ケ盡シテ地ニ遺利ナク、人民勉強シテ人ニ遺カナシ。我國ハ荒蕪ノ土地アリテ、地ニ遺利アリ。人民怠惰ノ者アリテ、人ニ遺カ多シ。英國ノ自由交易ヲ開キシ時ハ、已レ獨リ工作商術ニ長シテ、他國ノ民皆之ニ拙シ。我國ノ自由交易ヲ開キシ時ハ、他國ノ民皆工作商術ニ長シテ、我國獨リ之ニ拙シ。此四者ヲ比シテ之ヲ考フハ、心我邦

自由交易ヲ行ハベカラザルハ。色ニ瞭然タル
 英國ノ如キモ。其始ハメルカニテルシステ
 ハトイヘル法アリテ。輸入品ニ重税ヲ課シ。輸出
 品ニ賞典ヲ與ヘ。以テ自國ノ工作ヲ勵マシ。貨幣
 ノ濫出ヲ防ギシナリ。一千七百年ノ末。アダムス
 ニスナル者出テ。初メ五メルカニテルシステム
 ノ非ヲ論ジ。自由交易ノ利ヲ説キ。遂ニ其國ノ交
 易法ヲ變ズルニ至リシナリ。然レモ余ヲ以テ之
 ヲ見レバ。英國ノ富ヲ致セシハ。其初メルカニテ
 ル法アリテ。貨幣ノ濫出ヲ防ギ。自國ノ工業ヲ

勵マセシ故ナルベシ。一千七百十年ノ末ニ至リ。其
 國ノ工作繁盛ヲ極メ。地ニ遺利ナク。人ニ遺力ナ
 シ。是ニ於テ自由交易ノ法ヲ以テ。交易ノ範圍ヲ
 擴開シ。以テ今日ノ富盛ニ至リシ者ナルベシ。若
 シアダムスミスヲシテ。三四百年ノ前ニ生レシ
 ハ。余其必ス自由交易ノ説ヲ主張セザリシハ
 ヲ知ルナリ。亞米利加人ハ斷然トシテ。保護税法
 ヲ行ヒテ曰ク。他國ノ輸入貨ニ重税ヲ課スルハ
 自國ノ工作ヲ勵マスガ為ナリト。今我國ト米國
 ト交易上ノ事ヲ比較スルニ。他國ニ後レテ交易

活眼孟子曰
 地ヲ易ヘバ
 皆然リト

一轉大ニ好
シ商業工業
ノ兩端ヲ執
テ左右衝突
自由交易先
生逃ル、所
ナシ攻撃論
文此ノ如キ

ヲ開キシモ相同シ。地ニ遺利アルモ相同シ。心計
ニ長ズルハ、我民大ニ米人ニ及バズト雖、米人
ノ工作ハ遙ニ歐人ノ下ニ在レバ、此事亦我國ト
相類似ス。其異ナル者ハ自ラ開クト。逼リテ開カ
ルハ、一ノ一條ノミ。然ラハ則我國ハ交易法ハ四不
同ハ英國ヲ學バンカ。一異三同ハ米國ヲ學バン
カ。請フ智者之ヲ度レ。然ニ前ニ言フ所ノ者ハ特
ニ理論上ノ得失ノミ。實驗上ノ得失ニ至テハ、更
ニ之ヨリ甚シキ者アリ。其事ハ世人ハ普ク知ル
所ニシテ、商業ヨリ之ヲ言ハバ、十年七百方餘圓

処ナケレバ
讀者ノ心目
ヲ醒スニ足
ラズ

精神身体ハ
是客政府人
民ハ是主
客錯綜限
キ変化限
キ出没論
文中傑作

ハ損失アリ。工業ヨリ之ヲ言ハバ、我國ハ工人他
年其業ヲ失ハバ、恐レ不リ。若シ食ヲ失フト、年
々今日ノ如ク甚シク、民ハ工業ヲ為ス者殊ニ木
綿砂糖鑛ノ類年ヲ逐テ減ルル代ハ、民何ヲ以テ
生活センヤ。國何ヲ以テ自立センヤ。實ニ積薪ハ
上ニ坐スルハ損アリ。恐レテ懼レバ、ルベクニヤ。
政府與人民利害論 西村 茂樹
凡ソ物ニハ合名アリ分名アリ。人ト云フハ合名
ナリ。精神身体ト云フハ分名ナリ。國ト云フハ合
名ナリ。政府人民ト云フハ分名ナリ。合名上ヨリ

今昔名家文抄卷三

利害ノ二字
通篇ノ脈絡

之ヲ視レバ人モ一物ナリ。國モ一物ナリ。功名上
ヨリ之ヲ見レバ人モ二物ナリ。國モ二物ナリ。已
ニ分レテ二物トナレバ勢必其利害得失ヲ異
ニセザルヲ得ズ。請フ其詳ヲ言ハシム。人ノ精ヲ
竭シ、思ヲ勞シ、學問ヲ勵ミ、事業ヲ務メ、以テ賢人
君子ト為リ、以テ功名富貴ヲ得ルハ、精神ノ利ナ
リ、然レモ身体上ヨリ之ヲ言ハシム。之ガ為ニ健康
ヲ害シ、性命ヲ短クスル恐アレバ、之ヲ害ト云ハ
ザルヲ得ズ。肢体ヲ運動シ、筋骨ヲ煉磨シ、思慮
ヲ勞セズ、精神ヲ役セズ、以テ健康長壽ヲ保ツハ、

下折客ヨリ
主ニ入ルル処
文法觀ルベ
シ亦然ノニ
字幹旋カア

身体ノ利ナリ、然レモ精神トヨリ之ヲ言ハシム。智
識ヲ開カズ、道理ヲ明カナラズ、終ニ愚痴蒙昧ノ
人ト為ルノ恐アレバ、之ヲ害ト云ハザルヲ得
ズ。夫レ一人ノ身ナリ、合セテ之ヲ見レバ固ヨリ
一物ナレバ、利害ヲ分ツベキノ理ナシ。分ツテ之
ヲ見レバ、其利害互ニ同ジカラス。彼ノ利即此ノ
害ト為ル者ハ、豈奇ナラズヤ。國ノ如キモ亦然リ。
威權隆赫、民望ニテ之ヲ畏レ、令スレバ行ハレ、禁
ズレバ止ミ、其為サント欲スル所ハ、國中敢テ之
ニ抵牾スル者ナキハ、政府ノ利ナリ。然レモ人民

今昔名家文抄卷二

ヨリ之ヲ言ハバ、之ガ為ニ束縛ニ罹リ、壓制ヲ受
ケ、少シモ已カ推理ヲ伸ブルヲ得ザレバ、之ヲ
害ト云ハザルヲ得ズ、自由ヲ伸シ、羈絆ヲ脱シ、
租税ハ吾之ヲ増減スベシ。官吏ハ吾之ヲ進退ス
ベシ。是ハ人民ハ利ナリ、然レモ政府ヨリ之ヲ言ハ
バ、政府ノ權ヲ殺キ、人主ノ威ヲ減ジ、事ヲ為スニ
常ニ挈肘矛盾ノ患アレハ、之ヲ害ト云ハザルヲ
得ザルナリ。夫レ人民ハ租税ヲ出ス者ナリ、政
府ハ租税ヲ收ムル者ナリ、租税ヲ出ス者ノ利ハ
少キニ在リ、租税ヲ收ムル者ノ利ハ多キニ在リ、

獨リ暴政府租税ハ多キヲ利スルノミナラス、良
政府ト雖モ、租税ノ多キハ、決シテ之ヲ厭フナ
カルベシ。獨リ情民ノ租税ノ少キヲ利スルノミ
ナラス、良民ト雖モ、租税ノ少キハ、決シテ之ヲ厭
フニ非ルナリ。譬ヘバ、金ヲ借ル者ト貸ス者トハ
如シ、金ヲ借ル者ハ利足ハ低キニ利アリ、金ヲ貸
ス者ハ利息ハ高キニ利アリ、厚德ハ人ト雖モ、金
ヲ借ルニ利息ハ高キヲ欲シ、金ヲ貸スニ利息ハ
低キヲ欲スルハ、未ダ之アラザルナリ。又物ヲ賣
買スルガ如シ、賣ル者ハ價ハ貴キヲ欲シ、買フ者

此論ハ切近
ニシテ解シ
易ク悟リ易
キ者ヲ善ト
ス、蘇長公最
モ此妙ヲ得
テ、此文殆
ト之近シ

總々實物ヲ
論ハズ徐々
比喩ヲ翻弄
シ義理自ラ
明晰ナラシ
ム文字ノ學
ニ深キ者ニ
非ザレバ能
ハザルナリ

三カ字ヲ以
テ疑案ヲ起
シ後段公利
私利ノ論ヲ

生ハ只其文
章ノ妙ノ
ナラス道理
頗ル穩當此
一段アリ始
テ老生老練
ノ人タルヲ
知ル公私二
字是此篇ノ
目的

價ハ賤シキヲ欲ス。君子者ト雖、民物ヲ買フニ
價ハ貴キヲ欲シ。物ヲ賣ルニ價ハ賤キヲ欲スル
ハ未ダ之ハアラザルナリ。是ニ由テ觀レバ仁政
ヲ行ヒ、稅斂ヲ薄クスルヲ以テ政府ニ望ムハ猶
金ヲ貸ス者ニ利息ハ低キヲ望ミ、物ヲ賣ル者ニ
價ハ賤キヲ望ムガ如ク。到底貸ス者賣ル者ハ利
ニ非ザレバ、自然ヲ以テ之ヲ得ベキニ非ズ。是古
ヨリ仁政ヲ行フ者常ニ少クシテ、暴政ヲ行フ者
常ニ多キ所以ナリ。然ラバ政府ト云フ者ハ、自然
ニ任セ置ク時ハ、決シテ仁政ヲ行ハザル者ナル

カ。人民若シ己ノ推理ヲ得ニト欲セバ己ガ力ヲ
以テ強テ之ヲ奪フベキ者ナルカ。租稅ヲ輕クセ
ント欲セバ、勢ヲ以テ政府ヲ脅カシ、而シテ後始
テ其望ヲ達スベキ者ナルカ。凡ソ天下ノ事ハ、公
利アリ、私利アリ。己ガ一身ヲ利シテ、兼テ他人ヲ
利スル者ヲ公利ト云ヒ、己ガ一身ヲ利シテ、他人
ノ不利ヲ顧ミザル者ヲ私利ト云フ。交際ハ人類
ノ為サバルベカラザルノ道ナリ。己ニ交際ヲ為
ス時ハ、一人ノ私利ヲ求メテ、衆人ノ公利ヲ害ス
ベカラズ。故ニ金ヲ貸ス者モ亦借ル者ハ利ヲ思

今禮名家文抄卷三

此等ノ処是
余カ評々ト
所ノ主客錯
録限リナキ
變化限リキ
出沒ノ所ナリ

ハバク、物ヲ賣ル者モ亦買フ者ハ利ヲ思フベシ。
若シ然ラズシテ己ガ私利ヲ營ミ而シテ人ノ公
利ヲ害スル時ハ其私利ナル者モ亦遂ニ己ガ利
ト為ルヲ得ズ却テ私損ト為ルニ至ルベシ。夫
レ我身ト他人トハ本ヨリ判然トシテ二物ナレ
バ我ノ利ハ敢テ他人ノ利ニ非ルニ似タリ。然レ
此單我身ヲ利シテ他人ノ不利ヲ顧ミザル時
ハ亦翻テ我身ノ不利ヲ来スニ至ル。國ノ如キハ
是ニ異リ之ヲ分テバ政府人民ノ別ナリト雖モ
原来團圓ナル一物ニシテ恰モ精神ト身体ト合

前ニ言フ所ハ
私利今言フ
所ハ公利公
私ヲ問ハズ
只利害ヲ見
ル是古今徒
戰徒乱ノ多
キ所以ナリ
噫

シテ一ハ人ト為ルニ同シ。己ハ團圓ナル一物ナ
ル時ハ政府ハ利ハ即人民ハ利ニ非ズ。人民ハ不
利ハ即政府ハ不利ナリ。譬ハバ精神ハ衰弱ハ身
体ハ不利ニシテ身体ハ疲勞ハ亦精神ハ不利ナ
ルカ如シ。今言フ所ノ如クナレバ前ニ述ル所ノ
政府ノ利不利人民ノ利不利ノ説ハ全ク非ナル
カ。曰ク非ナラザルナリ。私利ヲ以テ之ヲ論ズル
時ハ前ニ述ル所ノ如シ。公利ヲ以テ之ヲ論ズル
時ハ今言フ所ノ如シ。國ノ公利ナル者ハ如何ニ
富ナリ。強ナリ。治安ナリ。榮譽ナリ。政府モ之ヲ以

テ目的トナサバ。ルベカラズ。人民モ之ヲ以テ目的ト為サバ。ルベカラズ。威權ヲ專ニシ。賦斂ヲ厚クスルハ。政府ノ利ナリト雖。正之ヲ行ヒテ富強治安榮譽ノ害トナラバ。政府宜ク己ノ欲ニ克チ。其私利ヲ抑ヘテ。之ヲ行フコトナカルベシ。民權ヲ伸シ。租稅ヲ減スルハ。人民ノ利ナリト雖。正之ヲ行ヒテ富強治安榮譽ノ害ト為ラバ。人民宜ク己ノ欲ニ克チ。其私利ヲ抑ヘテ。之ヲ行フコトナカルベシ。此ハ如クハ。時ハ。上下共ニ其利ヲ同クシ。政府人民ヲ凌虐スルハ。患ナク。人民政府ニ背叛

スルハ。虞ナク。全國カヲ合セテ。富強治安榮譽ノ地ニ進ムベシ。然ニ半化ノ國ニ於テハ。政府ハ威權常ニ重ク。人材常ニ多シ。人民ハ之ニ及ス。政府ノ力ハ。常ニ八九分ノ重キヲ得テ。人民ノ力ハ。常ニ一二分ノ重キニ過ギズ。故ニ國力ノ平均ヲ得シトスルニ。政府モ五歩ヲ退ケ。人民モ五分ヲ退クルト云フコトニテハ。真ニ國力ノ平均ヲ得ル能ハズ。必ズヤ政府二三歩ヲ退ケ。人民八九歩ヲ進メテ。初テ平均ヲ得ルニ至ルベシ。是有志者ノ民權ヲ主張シ。反復論說シテ止マザル所以ナリ。

此篇文章上ヨリ之ヲ云ハ政府人民ノ四字ハ是モ精神身体ノ四字ハ是モナレバ議論ハヨリ之ヲ云ハ人民ノ字是モニシテ政府ハ是モ精神身体ハ客ト知ルベシ故ニ結句曰ク懋ノヨリ云々ト云テ政府

夫。民。權。ハ。人。民。固。有。ノ。至。寶。ニ。シ。テ。政。府。ハ。與。フ。ル。ヲ。待。ツ。ベ。キ。者。ニ。非。ル。ナ。リ。近。日。ノ。状。ヲ。見。ル。ニ。政。府。固。ヨ。リ。已。ニ。國。ノ。公。利。ヲ。知。ル。ガ。如。シ。能。ク。公。利。ヲ。知。レ。バ。民。ト。私。利。ヲ。争。ハ。ギ。ル。ヤ。必。セ。リ。人。民。若。シ。奮。ツ。テ。民。權。ヲ。取。リ。以。テ。國。力。ノ。平。均。ヲ。調。整。セ。ン。ト。セ。バ。政。府。斷。ジ。テ。之。ヲ。拒。ム。ノ。理。ナ。シ。或。ハ。喜。テ。之。ヲ。允。許。ス。ル。モ。亦。知。ル。ベ。カ。ラ。ギ。ル。ナ。リ。若。シ。人。民。タ。ル。者。漫。然。政。府。ニ。倚。賴。シ。以。テ。政。府。ノ。民。權。ヲ。賜。フ。ヲ。待。ツ。ハ。譬。ハ。バ。黃。河。ハ。清。ハ。キ。待。ツ。ガ。如。ク。遂。ニ。之。ニ。逢。フ。ハ。期。ナ。カ。ル。ベ。シ。懋。ノ。ヨ。リ。民。權。

家懋ノヨリ人民

自主ノ權ハ自主ノ志行ヨリ起ル論 原漢文

中村正直

論ニ曰ク國自主ノ權アル所以ノ者ハ人民自主ノ權アルニ由ル人民自主ノ權アル所以ノ者ハ其自主ノ志行アルニ由ル今夫レ二三十家ノ民相團スレバ則村ト曰フ數村相聯スレバ則縣ト曰フ數縣相會スレバ則郡ト曰フ數郡相合スレバ則國ト曰フ故ニ某ハ村風俗純實ト曰フガ如キハ則某村人民ハ言行純實ナル者之ヲ為スナ

ニ及ハズ是文法捫脱輕重ヲ成ニ主客ヲ分ツ所以ナリ

一篇主意

國民二致ナ
シ之ヲ主意
洗發ノ法ト
云フ

試ニ云々洗發
一層

リ。某ハ縣多ク貨物ヲ出スト曰フハ。則某縣人民
ハ農ヲカメテ工ヲ勤ムル者之ヲ為スナリ。某ハ
郡藝文蔚興スト曰フハ。則某ハ郡人民ハ學ヲ嗜
ミ藝ヲ講スル者之ヲ為スナリ。某ハ國福祚昌盛
ト曰フハ。則某ハ國人民ハ志行端良克ク天心ニ
合フ者之ヲ為スナリ。蓋シ總稱シテ國ト曰ヒ。分
言シテ民ト曰フ。始ヨリ二致ナキナリ。試ニ輿地
圖ヲ掲ケテ之ヲ觀ヨ。自主ノ國幾何ゾ。半主ノ國
幾何ゾ。羈屬ノ國幾何ゾ。印度ノ如キハ。古ハ自主
ノ國ナリ。今ハ則悉ク英ニ統ラル。安南古ハ自主

臣云々洗發
三層

ノ國タリ。今ハ則半主ノ法ニ屬ス。南洋中ノ諸國ノ
如キ。今西國ノ屬ト為ラ。山川者莫シ。亦或ハ私謂
ラク。西國英君哲輔アリ。故ニ勢威遠方ニ加ノト。
殊ニ西國ノ民勤勉忍耐。自主ノ志行アリ。暴君汚
吏ノ羈制ヲ受ケズ。故ニ邦國ノ景象駸々トシテ。
日ニ上ル。蓋然ルヲ期セズシテ。然ル者アルヲ知
ラズ。且ツ獨リ此レノミナラザル也。西國ノ君大
ニ其智ヲ用ウレバ。則其國大ニ亂レ。小シク其ノ
智ヲ用ウレバ。則其國小シク亂ル。載テ史冊ニ在
リ。歷々トシテ徵ス可シ。方今西國ノ君已レノ意

今禮名家文少卷三

蓋云々洗登
三層

ヲ以テ輒ク一令ヲ出スヲ得ズ。己レノ命ヲ以テ
輒ク一人ヲ囚繫スルヲ得ズ。財賦ノ數、民ニ由リ
之ヲ定ム。軍國ノ大事、民人ノ公許ニ非レハ舉行
スルヲ得ズ。蓋シ西國ノ君、譬へハ、則御者ナリ。民
人ハ譬へバ則車ニ乘ル者ナリ。其當ニ何レノ方
ニ向ツテ發スベキ、當ニ何レノ路ニ由リテ進ム
ベキ、固ヨリ車ニ乘ル者ノ意ナリ。御者ハ其意ニ
從ヒ、控御ノ術ヲ施スニ過サル耳。故ニ君主ノ權
ハ其私有ニ非サルナリ。闔國民人ノ權、其身ニ萃
マル者是レノミ、唯然リ。故ニ君主ノ令スル所ノ

余尚云々ヨリ
豈謬ラス
至ル一段文
章發局法
三ニテ論意ハ
直ニ余又改
ニ接フ者若
文字ノ多キニ
眩迷セラレ
論意ノアル處
ヲ誤認スル
ナレ

者ハ國人ノ行ハント欲スル所ハ以テ君主ノ禁ズ
ル所ノ者ハ國人ノ行ハント欲スル所ナリ。君民
一體上下情ヲ同クシ、朝野好ヲ共ニシ、公私別無
ク國ノ昌盛ナル所以ハ者、其レ此ニ由ラザラン
ヤ。余尚ホ記ス、童子ノ時、清英兵ヲ交へ、英屢大ニ
捷チ、其國ニ女王維多利亞ト曰フ有リト聞キ、則
驚テ曰、眇乎タル嶋嶽、女豪傑ヲ出ス、乃チ爾リ、堂
々タル滿清反テ一箇モ是レ男兒ナル無キヤト。
後海國圖志ヲ讀ム、謂フアリ曰ク、英ノ俗、貪ニシ
テ悍奢ヲ尚トヒ、酒ヲ嗜ム、惟技藝靈巧ト、當時謂

公體新編抄卷三

テ信然トナス。前年英都ニ遊ヒ留ルニ載。徐ク其
政俗ヲ察スルニ及ヒ、以テ其然ラザルヲ知ルア
リ。今ノ女王、尋常老婆、飴ヲ含ンテ孫ヲ弄スルニ
過ギザルノミ。而シテ百姓ノ議會最モ重シ。諸侯
議會之ニ亞ク、其衆ニ掄バレ、民委官ト為ル者ハ
必ク學明ニ、行ヒ修マレルノ人ナリ。天ヲ敬シ人
ヲ愛スルノ心アル者ナリ。己ニ克チ獨ヲ慎ムノ
工夫アル者ナリ。多ク世故ヲ更ヘ艱難ニ長ズル
人ナリ。而シテ權詐猥薄ノ徒與カラズ。神ヲ慢
リ心ヲ欺ク人與カラズ。酒色貨利ノ徒與カラ

ズ。功ヲ喜ビ事ヲ生ズルノ人與カラス。其俗ハ則
上帝ニ事ハ禮拜ヲ尊ビ、持經ヲ尚ヒ、好テ貧病者
ヲ賑濟ス。國中設クル所、仁善ノ規法、殫述スルニ
遑アラズ。姑ク其一ヲ舉グ。貧家ノ子女、往テ學ブ
所ノ學院、通計三萬有餘所、學徒二百萬人。晝間職
務アル者、往テ學ブ所ノ學院、夕學院ト名クル者、
二千有餘所、學徒八萬人。凡テ此レ民人公同銀ヲ
捐テ而シテ設クル者ニ係リ。官府與カラズ。凡百
ノ事、官府ノ為ス所、十二其一ニ居リ。人民ノ為ス
所、十二其九ニ居ル。然リ而シテ其所謂官府ナル

抑云々
豈云々
然云々
用法皆宜シ

者亦唯民人ノ利便ノ為ニシテ設ル會所耳。權勢
ヲ貪リ威刑ヲ擅ニスル如キノ事有ル母キナリ。
抑モ通國ノ廣キ人民ノ多キヲ以テ。豈嘉究不法
ノ徒無カラサランヤ。然ニ其大體ヲ審ニスレバ。
則稱シテ政教風俗美ヲ西方ニ擅ニスト曰モ可
ナリ。而シテ魏氏ノ書徒ニ其貪悍奢ヲ尚ヒ。酒ヲ
嗜ムト稱ス。是レ蓋シ西國無賴ノ徒。東洋ニ居ル
者ヲ見テ之ヲ概言スル耳。何ソ其謬レルヤ。余又
近コ口西國古今僑傑ノ傳記ヲ讀ミ其皆自主自
主ノ志アリ。艱難辛苦ノ行アリ。天ヲ敬シ人ヲ愛

此一段餘波
ノ如シ然其
實上ノ西國
君譬ハ御
者ナリノ比喩
ヲ復用ニ自ラ
文章收束ノ
地ヲ成サント
欲スルナリ老
練手筆ト云
ヘシ

スルノ誠意ニ原キ以テ能ク世ヲ濟シ民ヲ利ス
ルノ大業ヲ立ルヲ觀テ益以テ彼ノ上。文教昌明
名四海ニ揚カル者。實ニ其國人勤勉忍耐ノ力ニ
由テ具君主得テ與カラザルヲ知ルアルナリ。嘗
テ聞ク善馬車ニ駕スル者アリ。鞭策ヲ加ヘスシ
テ自ラ能ク行キ。控御ヲ待タズシテ自ラ能ク馳
ス。御者妄ニ繩繩ヲ引キ。多ク撻責ヲ加フルニ及
ハテ。其馬打撻抵牾頓ニ行ク。不能ハザルヲ致ス。
嗚呼坤輿ハ内何ハ國カ善ナラザラシ。何ハ民
カ良トガラシ。御者ハ功ヲ喜ビ。事ヲ滋クスル

二由テ其性ヲ遂ズ其天良ヲ存スル能ハザルヲ致ス者蓋シ亦多哉

賞罰毀譽論

中村正直

賞罰ヲ以テ榮辱トナシ。毀譽ヲ以テ喜怒ヲ為ス。人情物理ノ當然トスル所ナリ。王法ノ賞罰アリ。時論ノ毀譽アルニ由リ。衆人ノ善ニ勸ニ惡ニ懲ル。心益深クナルトナレバ。此二者ノ世道人心ノ為ニ裨益トナルヲ固ヨリ言ヲ待ズ。此外眞神ノ賞罰アリテ人心幽眇ノ地マテ達シ洞鑿遺スナク最モ望ムベク最トモ懼ルキモアレ非レ今日論ハル所ノ主意ニ但シ王法ノ賞罰時ト

賞罰毀譽論
是非賞罰毀
譽顧ミルニ
足ラル論リ
駁題格ト稱
スベシ

シテ愛憎ニ迷ヒ公平ヲ失錯スルヲアリ。時論ノ毀譽或ハ見聞ニ溺レ是非ヲ顛倒スルヲアリ。故ニ東西古今ノ史ヲ歴觀スルニ今日ヨリハ大人豪傑ト稱セララルモノ其當時ニ在テハ惟爵勲賞典ヲ得ザルノミナラズ。往々惡名ヲ負ヒ罪人トナリ。囚獄ニ投セラレ刑戮ニ處セラレ。或ハ王法ノ罰責ヲ免カルモ時論ニ忌ミ嫌ハレ。一生身ヲ容ル所ナク流離窮厄ニシテ世ヲ没スル類枚擧スルニ遑アラズ。是ヲ以テ之ヲ觀ルトキハ王法ノ賞罰及ヒ時論ノ毀譽ハ中人以上ノ勸

懲トナスベク。第一流ノ人即チ大人豪傑ノ輕重
ヲ為スニ足ラザルナリ。蓋シ大人豪傑ハ其學問
識見遙ニ尋常庸衆ノ上ニ超エ、風俗慣習ノ範圍
ヲ脱ス。故ニ其是非スル所、其可否スル者、自カラ
從前ノ論ト、氷炭相反シ、世人ニ疑ヒ怪シマレ、甚
シキハ窘逐殺戮セララル、ニ至ル。然レ氏時代ノ
久シキヲ經ルニ從ヒ、大人ノ名ハ益顯ハレ、其識
見議論天下ニ行ハレ、世ノ有シ限リ朽ルナカ
ル可シ、之ニ反シテ是等ノ人ヲ疑怪シ、窘逐スル
人ハ、國王ニモセヨ、宰臣ニモセヨ、一時平民ノ大

勢カアルモノニモセヨ、其名烟消シテ霧散ス、其
偶傳ハル者モ、其臭名聞ク者鼻ヲ掩フ、西人是ヲ
時代ノ復讎ト云フ。古キ話ニテ、誰モ知ルナレ
氏。孔子ハ木ヲ宋ニ伐ラレ、陳蔡ノ間ニ圍マレ、四
方ニ周遊シ、席煖ナルニ、暇アラズトイハル、程
ナリ。今日ニ至リテコソ、朱文公ト學者ニ欽仰セ
ラル、氏、其當時ニ在テ、偽學ヲ以テ目セララル、蘇
東坡ノ如キ、其詩文後世ニ重ンセラル、モ、元祐
姦黨ノ一人ナリ、黨籍研ハ蔡京之ヲ建テ、星變ヲ
以テ毀チシガ、其後黨人ノ子孫ハ、更ニ之ヲ榮ト

ナシ、重ネテ之ヲ摹刺セシトイヘリ。王法ノ賞罰。公平ヲ失ヒ、時論ノ毀譽是非ヲ誤マルトキハ、姦黨碑ニ名ヲ載ラル、モ辱ナラズシテ榮トナリ。若シ姦黨碑ヲ以テ榮トスル時ハ、勲等牌ヲ以テ苟シクモ偏愛濫賞ニ涉ル時ハ辱トナサバルヲ保スルヲ能ハズ。萬人ノ生ヲ殘シテ、封候ノ榮ヲ得ルモノアリ。百世ノ利ヲ遺テ、刑死ノ慘ヲ受ルモノアリ。是等ニ至リテハ、人間ノ賞罰、毀譽ト、天道ノ賞罰、可否ト、互ニ相悖反スルモハト思ハル、ナリ。西國ニテモ新教ヲ弘ムル魁首ナル路陽ハ匹夫ヲ以

テ羅馬法王ヲ抗シ、百般ノ危難ヲ冒シ、生命ノ危クシ、遂ニ今日ニ至リ、其榮名盛譽ハ國王宰臣之ヲ羨シテ得ルホドナルモ、其生時ハ時計ヲ掃除シ、或ハ園丁ノ事ヲ為シ、其生ヲ警ナメシトアリト。日耳曼今日ノ人民ノ品行ハ、路陽ノ作レシモノニシテ國王ノ為セシニハ非ストモイヘリ。此ノ如キ大豪傑ハ、豈國王ノ賞典ニ由テ、其光ヲ發揚スルモノナランヤ。保羅ノ如キモ、西教ノ行ハル、諸國ニテハ、之ヲ尊崇シ、其書ヲ奉シテ經典ニ比ス。然ルニ其生時ハ、幕ヲ作ルヲ以テ職業

トシ。始ハ西教ヲ窮逐シ。既ニシテ信徒トナリ。之
ガ為ニ刑戮ヲ蒙ムリシナリ。此ノ如キ非常ノ人
ハ。豈王法ノ刑罰ニ由テ。其道ハ行ハルハ防キ過
ハルヲ得。然レ氏新ハ法ヲ舊ニ取リ。
今ハ事ヲ古ニ鑑ミ。聖賢ヲ殺スガ如キ。大差謬
ハ後世ニ見エザレ氏。新法ヲ創メ。新器ヲ製シ。及
ビ新説ヲ唱フル者ヲ毀リ辱カシメシ話説ハ。吾
ガ譯述ヒシ立志編ニモ多ク見エタリ。要シテ之
ヲ言フニ。大抵教法。脩身。經濟。格致。醫療等諸學ニ
於テ。今日有形無形ノ大利益大惠澤トナレル者

此処嗚咽流
涕嘆息ノ聲
ヲ聞カス如シ
嗚呼ノ字添傳
尤悲動

ハ。必ズ之ヲ首唱スル人アリ。其之ヲ首唱スル人
時ニ當ツテハ。或ハ國王ニ抗シ。一世ヲ敵ト受ケ。
或ハ衆人ニ毀テ。顛狂トモ。癡愚トモ。山師トモ。
姦狡黠ナル名ヲ付テ。ハル者ナリ。又獨自ニ己
ヲ信シ。千辛万苦ヲ忍ビ。人間ハ賞罰。衆人ハ毀譽
ヲ馬耳東風ニ付シタル人ナリ。嗚呼時俗ハ論ホ
ト時ハニ足ラガ者ハハシ。眼前ハ賞亦ト慕ハキ
者ハハシ。世ノ子弟及ヒ年少ノ人ニ告グ。勉テ大
志ヲ立テ。各其才ノ近キ所ニ從ヒ。一學科。一藝術
ニ專心勉強シ。時俗ノ毀譽ヲ顧リミズ。自己ノ品

行ヲ砥礪シ、一世ヲ裨益スル人トナルヲ期スハ
 三。果テ然ラバ或ハ一世ヨリ許可セラレテ、勲等
 ノ牌、劔環綬ヲ禮服ノ上ニ著得ラルベシ。若シ又
 王法ノ賞ニ漏ル、此後世ニ至リ更ニ是ニ増シ
 タル尊榮ヲ受得ラルベシ。數日前ニ勲等牌ノ詔
 アリ、一世ヲ勸勉スルノ具トナル勿論ナリ。但シ
 人民タル者ハ、若シ王法時論ノ外ニ賞罰毀譽ア
 ラズト思ヒ、世末ノ賞罰ト云フトモ知ラズ、身後
 ノ榮名ト云フトモ知ラズ、特ニ目前ノ賞生前ノ
 事ニ著意シ、是レコトヲ無上ノ賞典ノリト思フ時

ハ、抑モ未ナリ、世ニ窮簷陋屋ノ中ニアリテ、襤褸
 ヲ着ケ、糟糠ヲ食ヒ、一己ヲ儉節ニシテ他人ヲ利
 益シ、職業ヲ勉テ邦國ヲ富足ナラシムル人アル
 ベシ。王法ノ賞ノ及ブ所ニ非ズト雖、天皇ノ褒
 賞必ズ疑アルベカラザル。努力セザル
 ミカラズ、英國名士ノ語ニ、職分ヲ盡シ、良心ニ負
 カサルハ、中夜ノ樂聲ナリト、蓋シ人タル者其行
 為必ズ先ツ自己ノ良心ヨリ賞許ヲ得ベキナリ。

愛敵論

西 周

爾ニ敵スル者ハ之ヲ愛セヨ、此一訣、遠ニ之ヲ見

直説主言
 是格然
 真君子ノ語
 千載ノ下其
 人ヲ想見シ
 景仰止マザ
 ラシム

今體名家文抄卷三

是古語ニシテ
此人造語ニ
非カシト一説
云々以下此語
ノ註脚ト云
可ナリ

第一節

レバ驚クベキガ如ク。怪シムベキガ如シ。然ニ深
ク其旨ヲ究ムレバ。上帝純善至仁ノ徳。此中ニ包
含シ。又遺漏ナシ。人苟モ上天ノ意ヲ體セシト欲
スル者。之ヲ以テ道德至極至高ノ則トスベシ。請
フ嘗ニ之ヲ論ゼシ。孔子云ク徳ヲ以テ徳ニ報シ。
直ヲ以テ怨ニ報ズ。是平常身ヲ持スルノ通則。之
ニ準シテ身ヲ律スル亦不可ナルナシ。蓋シ人己
カ權ヲ侵ス時ハ。己其權ヲ復セントヲ求ムルハ
固ヨリ理ノ常ニシテ。好惡愛憎ノ依テ以テ起ル
ハ。人心ノ性然ラシマル者ナリ。然ニ心ノ本體ハ

愉快爽快ヲ常トシ。愁苦鬱悶ヲ變トス。故ニ人ノ
人ニ遇シ。物ニ處スル。亦皆理ノ在ル所ニ順ニシ
テ。和煦平温ナルベク。必不悖戾暴悍ヲ常トス可
ラス。況ヤ人ハ既ニ肉體ノ生ニ於テ為群ノ性ヲ
有スルニ於テヤ。故ニ人ニ遇スル。必不愛ノ性
ヲ有セザル者莫シ。故ニ好愛ハ心ノ全體ニシテ。
惡憎ハ事ノ變ニ發スル者ナリ。今酌例ニ據テ之
ヲ明サバ。天ハ大風アリ。大雨アリ。陰曠アルガ如
シ。是素ヨリ理ハ然ラザルヲ得ザルニ出テ。其用
亦必ズ欠ク可ラザル者ナリト雖也。霽朗開明ナ

全體名義

ハハ其常ナルガ如シ。故ニ人心ハ物ニ接スル。愛
 好ヲ常トシ。惡憎ヲ變トス。故ニ敵ニ遇スルモ其
 常ヲ以テシ。其變ヲ以テス可ラザル是一理ナリ。
 然ニ又今一段之ヲ詳明スレバ。此敵スル者ト云
 フ字ヲ見ルベシ。所謂敵スル者ハ。我ト同體ノ者
 ナリ。故ニ其我ニ敵スルノ事ハ。惡ムベシト雖凡
 其同體タル所ニ於テハ之ヲ愛セザル可ラザル
 ナリ。所謂君子ハ其罪ヲ惡ミテ其人ヲ惡マス。故
 ニ惡ム者。唯其事ニ止ルベクシテ。其全體ヲ擧テ
 之ヲ惡ム可ラザルナリ。故ニ公法文戰ノ條規ノ

如キ。我狄殄滅ヲ以テ戰ノ目的トシ。生擒ヲ殺シ。
 降虜ヲ殺シ。毒箭ヲ用弁詭計ヲ行フガ如キハ。文
 明諸國既ニ之ヲ取ラズ。唯敵力ヲ挫折シテ止ム
 者是ナリ。今時西洋諸國死刑ヲ廢スルノ論アリ。
 往々之ヲ典刑ニ載スルノ國アリ。或ハ然ラザル
 モ。之ヲ滅スルハ比々皆然リ。蓋シ人本同體ノ人
 ヲ殺スノ權ナシ。苟モ其惡ヲナス所以ノ者ヲ捉
 捏スル亦可ナルノ一理ナリ。然ニ又今一段
 之ヲ詳明スレバ。此敵スル者ト云フ字ヲ見ルベ
 シ。所謂敵スル者ハ。我ト匹敵タル者ナリ。我既ニ

今禮名家文抄卷三

彼ト匹敵タリト思フ。是自ラ小ニスルナリ。苟モ
我彼ニ駕シテ上ル一層タレバ。我必不彼ノ我ニ
敵スル所以ノ在ル有ルヲ察シテ以テ彼ノ卑下
ナルヲ憐マントス。是之ヲ日常體驗ノ際ニ徵シ
テ。人々能ク自ラ知ル者ナリ。父母ハ惡子ニ於ル
が如ク。君子ハ小人ニ於ルが如シ。己ハ既ニ其匹
敵ニ非ハズ。彼ハ憤然我ニ抗スル者。我則チ夷然
之ヲ受ケ。犯_レドモ校_レス。同也。ソレ度幾ニカ。且
見ヨ尋常市井ノ間。任俠自ラ喜ブ者ハ如キ。又必
ス屑々瑣々其從類ト。錙銖ヲ較セズ。而シテ怨恨

第四節

憤愠ノ現象ハ多ク婦人ト小人トニアルヲヤ。是
一理ヲ以テ然_ル。又今_ノ段之ヲ詳明スルバ。此敵ス
ル者ト云フ字ヲ見ルベシ。所謂敵ス者ハ。我ト關
係尤深キ者ナリ。今秦人ノ越人ニ於ケル。豪斯多
羅利人ノ西伯人ニ於ケル如キ。之ヲ敵トシ。之ヲ
惡マシト欲スルモ。亦由ナキノミ。而シテ英佛人
相惡ム。同ク一方ニ雄視スルヲ以テナリ。英米蘭
白ノ相惡ムハ。本ヲ同クシテ未分レバナリ。此外
是葡相惡ニ。瑞陣相惡ム。皆是ナリ。乃チ兄弟財ハ
争フテ相惡ニ。同官權ヲ争フテ相惡ニ。同學理ヲ

相惡ノ字重
復安ヲ取リ
聯下軌ヲ成
ス文變破竹ノ

今體名家抄卷二

如シ此文此処
絶佳ト云フ

護羅爾ハ修
身學ト云ヒ
波里埜加ハ政
事學ヲ云ヒ

争ハテ相惡シ。同僚事ヲ争ハテ相惡シ。同賈利ヲ
争ハテ相惡シ。是皆其元始ニ反シ。其關係ヲ考フ
レバ。親密ナラボル可ラボル者ナリ。故ニ我之ヲ
愛スルハ關係トケレバ。亦之ヲ惡ムハ緣由トシテ
是レ惡ム者ハ愛スルハ緣由トル者ナリ。人誠
ニ此一訣ヲ以テ人ニ接スルハ要トナス。刻下既
ニ此一大人君子襟懷洒落片雲ハ上ニ飄然如ル
ヲ覺フ。吾儕豈勉焉。カヲ爰ニ用ル。カハ得ハ
唯此言即護羅爾个要訣ニシテ。波里埜加上律法
由ル所非ズ。蓋シ之ノ者並行シテ相戾ラズ

ル者ナリ。學者夫レ混視スル勿レ

内地旅行論

津田真道

内地旅行論
余津田先生ニ
左擔ニ福沢
先生ニ服ヒカ
自由交易論
即保護稅說
余西村先生ニ
左擔ニ津田
先生ニ服ヒカ
然ニ津田先生
論服ス者
多シ。格問論
死刑論出版
自由論等皆
余ノ服スル所也
而シテ此選今

外國條約改正ノ事ニ就テ。吾儕ノ尤冀望スル所
ノ條件ハ。裁判征稅ノ兩權ヲ我ニ收ムルナリ。國
家此兩權ヲ全有セザレバ。獨立自主ノ國ト云フ
一ニ嫌アルヲ免レズ。然レ氏此事我國方今ノ景
況ニテ。頗ル言フベクシテ。未ダ行フベカラズ。思
フニ。我國此兩權ヲ全有スル時ニ至ルハ。猶數年
ノ星霜ヲ有スベシ。外國人ノ大ニ冀望スル所ハ
内地旅行ノ自由ヲ得ルナリ。然レ氏我政府ハ之

皆是ヲ遺ス
モ聊顧慮
死命スル所
アレバ有官
幸ニ谷ル勿レ

ヲ欲セズ其之ヲ欲セザル所以ハ蓋シ我人氏開
化未ダ進マズ殊ニ僻陬邊陲ノ地ニハ頑固ノ徒
猶多ク或ハ殺害等ノ暴動アラニラ懼ルト
又一ニハ狡黠ナル外國人ノ為ニ愚蒙ナル邦人
ノ損失ヲ受ケンラ慮ル保護ノ基ク所ナリト
然レモ余ガ所見ハ之ニ反セリ外國人内地旅行
ノ事ハ宜ク斷然之ヲ許スベシ蓋シ目今我人氏
ニ乏シキ所ハ者ハ智識ナリ缺クル所ハ者ハ開
化ナリ夫レ開化ハ智識ハ本来教學ニ由テ以テ
之ヲ漸進スベシト雖モ此事學校教育ハ致ス所

固ヨリ一朝一夕ノ能ク辨スベキ所ニ非ズ抑歐
米各國以ノ彼ガ如ク智識ニ富シ開化ニ進ム所
以他ニ非ズ渠等通商交易五大洲中至ラザル所
ナク練磨經驗ニ富ムニ職トシテ之レ由ルナリ
故ニ人氏ハ智識ハ練磨ニ由テ長シ開化ハ交際
ニ由テ進ムト謂フベシ此ニ由テ之ヲ觀レハ目
今我人氏ハ智識ヲ長シ開化ヲ進ムル最上策ハ
我人氏ヲシテ多ク外國旅行ヲ為サシメ練磨ヲ
重子交際ヲ廣クスルニ過ル者ナシ然レモ此事
亦唯空論ニ之ヲ言フ可クシテ實事ニ施行スベ

今體名家文抄卷二

カラズ。其故何シトナレバ。多ク我人民ヲシテ。外
國行テ企テシムルニハ。其要スル所ノ鉅大ノ金
額足ラザレハナリ。又我商人我ヨリ船ヲ出シ。或
ハ外國ノ郵船ニ駕シ。外國ニ航シ。貿易ヲ為ス。方
今ニ在テハ。人々皆自由自在ナレバ。此事亦財
本或ハ智識ニ乏シクシテ。未ダ容易ニ行ハルベ
カラズ。左スレバ。目今外國人ノ我内地旅行ヲ望
ムハ幸ナリ。速ニ其請ヲ許シ。我帝國一般人民ノ
智識開化ヲシテ。外國人ト交通練磨由テ。日ニ
長シ月ニ進マシムルニ。蒸練學問。ハ功ハ百聞

俗言用其得テ
却テ雅味アリ
所謂引用妙

一見ニ如カズ。又習フヨリ慣ル。ナリ。然レバ此
事ニ就テ。廟堂ノ深ク憂慮スル所ハ。前ニ言フ如
ク。愚蒙ナル邦人ノ狡黠ナル外國人ノ為ニ。利益
ヲ奪ハレ。損失ヲ受ルナリ。此事實ニ然ルベシ。然
ニ一度斯ル事ニ逢ハザレバ。愚蒙ヲ闡キテ。智識
ニ進ムノ期アルナシ。抑夫ノ西洋人往昔十字
軍ノ為ニ。前後幾百万ノ資本ヲ費用セシヤ。得テ
知ルベカラズト雖也。由テ以テ東西各地ノ人互
ニ相接シ。買得タル者ハ。智識學術ナリ。一時ノ疲
弊固ヨリ多シト雖也。後來ノ裨益實ニ尠カラズ。

却テ優ニ之ヲ償フニ足レリト云ヘリ。而シテ我
國今ヲ距ルニ僅ニ十數年前ノ事ヲ回思スレバ、
各港ヲ開キ、外國交易ヲ為スルヲ我國未曾有ノ
大患害ナリト。思ヒタル人ノミニテ、鎖港ノ論頓
ニ生ジ、攘夷ノ議盛ニ起リタリ。然ニ外國交際ハ
自然ノ運歩ニシテ、理勢之ヲ拒絶スベカラズ。舊
政府已ムルヲ得ズ、漸ク各港ヲ開キ、遂ニ今日ノ
形勢ト為ルニ至レリ。今ニシテ之ヲ觀レバ、鎖港
攘夷ノ論ト、開港交通ノ説ト、是非得失、殆ニド辨
ラ疾クハシテ明カナリ。我人民、目今漸ク文明開

化ノ端緒ヲ曉リ、畧西洋諸學術ノ利益ヲ知リ、智
識練磨セズハアルベカラズ、作業勉勵ヒズハアル
ルベカラズト云フヲ知リタル者、其由来如何
下問フニ、是皆開港交通、僅ニ十數年ノ効ナリ。今
試ニ十數年ノ前ニ遡回シテ、之ヲ視レバ、當時西
洋ノ學術ヲ以テ、我ヨリ長ゼリトスル者ハ、醫家
兵家僅々十數人ニ過ギザルノミ、彼國ノ法律ヲ
是トシ、文明開化、又自由自主等ノ事ヲ辨知セル
者ハ、未ダ曾テアラザルナリ。爾後數年ヲ出ズシ
テ、少年ノ書生モ口ヲ開ケバ、則開化文明自由自

主等ノ事ヲ唱スルニ至ル。豈之ヲ大進歩ト謂ハザルベケンヤ。然リ而シテ此大進歩ヲ致ス所以。豈夫ノ開港交通ノ實効ニ非ズヤ。今日内地旅行ノ論ハ、猶十年前開港論ト同一一般ナルベシ。十年前ニ在テハ、今日開港ノ利ハ、智者ト雖モ猶知ラザル所ナリ。然ラバ則自今十年ノ後、内地旅行ノ利益ハ、目今智者ト雖モ亦恐ラクハ未ダ知ラザル所ナルベシ。然ニ余ハ開港ノ利益ヲ以テ、亦推シテ内地旅行ノ利益ヲ知ルナリ。而シテ今ヤ斷然トシテ、内地旅行ヲ許シ、十年ノ後ニ至ラバ、我

大日本帝國一般人民ノ智識開化、幾層ヲ増加スベシヤ。殆ンド我輩思慮ノ及バザル所アルベシ。蓋十年來開港交通ハ、効ハ、專ラ我國中以上ハ、智識開化ヲ增長セリ。十年以後内地旅行ハ、効ハ、我國一般ハ人民、即中人以下ハ、智識開化ヲ增長スベシ。其裨益タル亦宏大ナラスヤ。余ガ臆想ヲ以テ之ヲ度レバ、我輩ノ固ヨリ渴望スル所ノ、我政府裁判征税ノ兩權ヲ收メテ、五大洲中獨立不羈ノ自主帝國ト為ルハ、今ニシテ斷然内地旅行ヲ許スニ在リ。抑舊幕政府ノ時ニ方リテ、若シ夫レ

俄ニ各港ヲ開カバ。夫ノ攘夷黨ノ頑固輩。外國人ヲ殺害スル者。陸續繼出シテ。奈何トモスベカラザルニ至ラント。痛ク懸念憂慮セシニ。外國公使ヨリ強迫セラレ。已ムコトヲ得ズ。遂ニ各港ヲ開キタレ。今ヨリ之ヲ視レバ。左マデ憂フル程ノ事無カリケリ。然ニ今ニシテ先ツ裁判征税ノ兩權ヲ收メザレバ。決シテ内地旅行ハ許スベカラズト。肱ヲ張リテ論ズル者ハ。其議論固ヨリ愛國ノ至情ニ出ルコトハ。論ナケレ。夫ノ前日ノ攘夷家ノ扼腕切齒シテ。鎖港論為サシテ。企望シタルト。

余則云々先
生ノ學識自
他先生別
リ超過ス者
如シ蓋シ先
生ノ論ハ常ニ
開明ト道理ヲ
以テ勝テ他先
生ハ經綸ヲ以
テ勝ツモノカ

同日ノ論ニ陷リ。所謂スベクシテ行フベカラザル者ナリ。豈之ヲ智ト謂フベケンヤ。余ハ則百事自然ハ運歩ニ任ヒ。廟堂ハ政事ヨリ。人民一般ハ智識開化ニ至ル迄。禹ノ水ヲ治ルガ如ク。其事ナキ所ニ行リ。中道轉蹶ノ憂ナカラシムコトヲ冀望ス。ト云フ。

人材論

津田真道

天ノ人材ヲ生ズルヤ。地方ニ因テ異同アリ。時世ニ因テ優劣アリ。地方ニ因テ異同アル者ハ。專各色人種ノ本土互ニ異ナルト。氣候ノ寒暄同シカ

ラザル等ノ事ニ關係ス。時世ニ因テ優劣アル者ハ、同地方ニシテ、人材ノ出ル時ニ因テ、賈ニ懸隔ス。是首トシテ政治ノ廢興風俗ノ盛衰ニ關係ス。夫レ古昔亞細亞ニ多ク人材ヲ出シ、後世歐米各國ニ盛ニ人材ヲ出ス。詳ニ之ヲ言ヘバ、五帝三王ノ起ルヤ、人材支那ノ西北ニ多ク、後世ノ人材ハ、却テ其東南ニ在リ。鐵木真ノ起ルヤ、人材比々トシテ、蒙古ニ生シ、滿清ノ起ルヤ、人材多ク滿洲ニ産シ、希臘ノ盛ナルヤ、人材希臘ニ萃マリ、羅馬ノ起ルヤ、人材悉ク羅馬ニ興ル、歐羅巴ノ起ルヤ、人

材多ク徳佛英等諸國ニ生ス、猶細ニ我日本帝國ノ歴史ニ就テ之ヲ觀レバ、檀原奠都以來、人材多ク大和ニ生シ、平安遷都以來、人材多ク山城ニ生シ、源氏北條新田足利氏ノ互ニ起ルヤ、人材多ク關東ニ産シ、織豊ニ氏ノ起ルヤ、人材多ク尾張ニ出テ、徳川氏ノ起ルヤ、人材多ク三河ニ産シ、日今復古革新ノ際、人材多ク薩長土肥ヨリ出ヅ、其原因固ヨリ一ナラズ、容易ニ知り難シ、古人之ヲ氣運ニ歸ス、余按ズルニ、人材ノ輩出スル所以、容易ニ知り難ク、固ヨリ一言ニ能ク盡ス所ニ非ズト

雖此職トシテ能ク人ノ才氣ヲ暢發シテ屈抑セ
ザルニ之レ由ル即人性天授。自由自主。獨立不羈
ノ氣象ヲ伸暢スルノ度ニ由テ。是ノ如ク人材ノ
差等ヲ現ハスナリ。日今歐米ノ人材蕃盛ナル所
以伸ナシ。多ク此自由ノ氣ヲ發達スルノ之。亞細
亞ノ風俗ハ。即君主威制ノ政治。人民ノ材器ヲ籠
絡ス。故ニ人材ハ展伸スル所却テ僻陬邊隅。土化
不及ノ處ニ在リ。是古來異常ノ傑ハ勃興スル處。
必ズ文學流行ノ大都ニ非ズシテ。却テ邊境質朴
小野ニ在ル所ニナリ。然リ而シテ一豪傑崛起ス

奇論凡人夢
夢ノ及ガル所

抑揚妙アリ

レハ。傍人ヲ鼓舞振作ス。其材カヲ伸暢ス。是英
玉起ル所ナリ。必ズ多ク名賢ヲ出ス所以ナリ。日
今薩長土肥ノ多ク人材ヲ出シテ。他ノ各藩ニ傑
出スル所以。蓋亦斯ニ在リ。然レモ我日本日今ノ
人材ハ。我邦鎖國ノ時ニ養ヒ出ス所ノ人材ニシ
テ。即日本流ノ人材ノ之。未ダ之ヲ世界ノ人材ト
稱スベカラズ。今後我日本帝國ヨリ出ス所ノ人
材。獨リ蜻蜒洲ノ人材ニ止マラズシテ。五大洲ノ
人材タラントヲ冀望スルナリ。然レモ今後五大
洲ノ人材ヲ我東方ヨリ出サント欲セバ。我帝國

人民自由自主。獨立不羈ノ氣象ヲ涵養シ。人民ノ規模ヲ宏大ニセズンバアルビカラズ。乃立法者。法ヲ制スルハ際、司柄者政ヲ布クハ時ニ在テ大ニ斯ニ注意セズンバアル可カラザルナリ。

妻妾論

森

有禮

夫婦ハ交ハ心倫ハ大本ナリ。其本立テ而シテ道行ハ心道行ハ心テ而シテ國始テ堅立ス。人婚スレバ則權利義務其間ニ生ジ。互ニ相凌グヲ得ズ。何ヲ權利トシ。何ヲ義務トス。其相扶ク相保ツノ道ヲ云ナリ。即チ夫ハ扶助ヲ妻ニ要スルハ權利

ヲ有シ。又妻ヲ支保スルハ義務ヲ負ス。而シテ妻ハ支保ヲ夫ニ要スルハ權利ヲ有シ。又夫ヲ扶助スルハ義務ヲ負ス。苟モ此理ニ據リ。婚交セザル者ハ未ダ人間ノ婚交ト目ス可ラザルナリ。今我邦婚交ノ習俗ヲ視ルニ。夫恣ニ妻ヲ役使シ。若シ一事其意ニ充タザルガ如キ。任意ニ之ヲ去ル。凡國法嘗テ之ヲ律ガズ。是ヲ以テ權利義務其間ニ行ハルヲ得ズ。名ハ夫婦タリト雖。凡其實ヲ距ル甚遠シ。故余曰。我邦人倫ハ大本未ダ立カズト。從來婚法ニ數種アリ。媒ヲ用井テ婚スル者ヲ夫婦

ト稱シ其婦ヲ妻ト目ス。媒ヲ用井ズシテ婚スル者ヲ妾ト名ヅク。或ハ妻ノ外一妾。或ハ數妾ヲ婚スル者アリ。或ハ妾ヲ轉シテ妻ト為ス者アリ。妻妾併居スル者アリ。又之ヲ別ニシ。妻ヲ踈シ妾ヲ親ム者アリ。而シテ夫妻ノ婚ハ各其父母ノ協議ニ成リ。或ハ唯其許諾ヲ要スルアリ。夫妻ノ婚ハ之ニ異ナリ。惟其夫タル者ノ專決ト。妾家ノ承諾トニ成ル。或ハ金若干ヲ妾家ニ附シテ之ヲ得ルアリ。之ヲ受出シト云フ。即金若干ヲ以テ之ヲ買ヒ受ルハ義ナリ。而シテ其妻タル者ハ。槩ニ藝妓

其家系太々
貴シト雖モ其
血統太々成シ
故ニ此間ニ種
好逃辭アリ
曰腹ハ借リ
モノト

遊女ノ類ニシテ之ヲ娶ル者ハ皆貴族富人ニ係ル。故ニ貴族富人ノ家系ハ買者ニ由テ存スル者多シ。妻妾併居スルヤ其交際或ハ主從ノ如シト雖モ夫常ニ妾ヲ偏愛スルニ由リ。妻妾交妒害常ニ讐視スルニ至ル。故ニ妻妾或ハ數妾アル者ハ散シテ之ヲ別所ニ置キ。己レ先ツ其溺愛スル所ノ者ト共ニ居リ。其醜行ヲ恣ニスル者多シ。甚キハ妾ヲ婚スルヲ榮トシ。之ヲ為ガル者ヲ辱ムル風アリ。國法妻妾ヲ同視シ。又其生子ノ權理ヲ平等ニス。故ニ余今茲ニ我邦人倫ハ大本未カ立タ

ハルヲ辨シ其風俗ヲ害シ開明ヲ妨グルハ状ハ
他日又之ヲ論ゼント欲ス

男女同教論

福澤諭吉

近日男女同權ノ議論甚ダ喧クシテ孰レカ是非
ナルヲ知ラズ都テ事物ノ議論ヲスルニハ先ツ
其事物ノ品柄ヲ吟味セザレバ叶ハヌナリ故
ニ此同推論ニ就テモ先ツ男女ノ何物タルヲ察
シ推ノ何事タルヲ詳ニシテ然ル後ニ其是非得
失ノ議論ニ取掛ル可キナリ若シ然ラズシテ銘
々ノ所見ニ從ヒ男女ノ性質ヲ臆測シ推ノ字ヲ

推量シテ思ヒ思ヒニ説ヲ述ルテアラバ其際限
ナク所謂氷掛論ナリ譬へハ男女同席ト云ハズ
片婦人ヲ上坐ニ据ルガ如キハ尊敬ト云ハズ
敬ナリ扶助ト云ハバ扶助ナリ扶助ト思ハズ腹
モ立タズト雖モ一生懸命ニ婦人ヲ崇ム奉心ト
認レバ亦切齒扼腕スルモ可ナリ大抵世ノ中ノ
議論ハ此位ノモノナレバ余ガ考ニハ此事ニ就
テハ騷々シク是非ヲ述立テズシテ極々手近ナ
ル處ノ一端ヲ揚ゲテ誰ニモ了解シ易キ工夫專
一ノト思フナリ即其一端トハ宗旨ニモ非ズ

故高論滿
座之聲倒ス
其雄才想ヲ
ベシ學士ニ
テ豪傑我福
澤先生ニ於
之ヲ見ル

理論ニモ非ス。十露盤ツクハ話ニテ誰ニモ分リ
易キ男女同數論ナリ。先ツ世界中ノ男ト女ノ數
ハ大抵同様ナルユエ。男一人ト女一人ト相對シ
テ夫婦ニナル可キ勘定ナリ。若シ左モナクシテ
此處ニ餘計ハ女ヲ引込ハバ彼處ニ不足ナル
可ラス。イロハガルタノ娘ヒトリニ婚ハ人ガ不
都合ナレバ男ヒトリニ妻ハ人モ亦不都合ナラ
ズ。今日ハ處ニテハ同權ナドムツカシキ話ハ止
ムニシテ男一人女數人ハ交際ハ十露盤ハ勘定
ニ合ハヌユエ宜シカラズトハ云テ之ヲ同權

ハ初段ト為シ其餘ハ議論ハ學問ハ上達スルマ
テ延引ト定ム可シ。或ハ此話ニ尚早シトノ説ア
ラバ妻ヲ養フトモ藝者ヲ買フトモ黙シテ許サ
シ。唯之ヲ内證ニシテ人ニ隱ス可シ。人ニ隱スハ
耻ルノ初ナリ。人ニ耻ルハ自ラ禁スルノ初ナリ。
此同權ノ初段。世ニ行ハレテ數年ノ後ニ今ノ水
掛論モ何レニカ落着ニ及ブ可キナリ。

夫婦同權ノ流弊論 加藤弘之

森福澤兩先生ノ夫婦同權論出シヨリ。夫婦ノ真
理漸ク世ニ明カナルヲ得タレバ。從來夫ノ婦ヲ

蔑視スル惡風ト。妄ニ妾ヲ蓄フ醜俗次第ニ廢滅
シ。隨テ夫婦ノ同權真ニ實際ニ行ハルニ至ル
可シ。兩君ノ功績豈偉大ナラズヤ。然ニ愚ヲ以テ
之ヲ視レバ。方今歐洲夫婦ノ權カタル。其制度上
ニ於テハ。殆ト同一ニシテ。頗ル天理ニ協合スト
雖也。今日ノ交際上ニ於テハ。婦權却テ夫權ニ超
スルガ如シ。是レ蓋シ夫婦同權ノ理ヲ誤認スル
ヨリ生ゼシ弊害ナリ。今其一二例ヲ舉ゲンニ。夫
婦共ニ門戸ヲ出入スルニ。婦ヲ先ニシテ夫之ニ
隨ヒ。著席スルニ婦ヲ上坐ニ着カシム。夫ハ次坐

ヲ占ム。他人夫婦ノ家ヲ訪フトキハ。先ツ婦ニ禮
ヲ述テ。而シテ後夫ニ禮ヲ述ブ。夫婦ノ名ヲ呼ブ
トキハ。婦名ヲ先ニシテ夫名ヲ後ニス。其他婦人
ト同坐スルトキハ。特別ニ言語ヲ慎ミ。又其許可
ヲ得サレハ。喫烟セザル等。此類枚舉スルニ暇ア
ラス。婦權ノ大ナル真ニ驚クニ堪ヘタリ。洋人ハ
從來此風習ニ浸染ス。故ニ敢テ其不條理ナルヲ
悟ル能ハザルガ如シト雖也。我輩東方人ヨリ之
ヲ見レバ。實ニ怪シムベキ風習ト云ハザル可ラ
ズ。豈之ヲ夫婦ノ同權ト云フ可ケンヤ。余頃日某

家ニ於テ許多ノ女ト同坐シ。縦ニ烟ヲ喫シタリ
時ニ一洋客余ニ向テ許多同坐ノ貴婦人等喫烟
ヲ好マザレバ。足下請フ烟ヲ禁セヨト云ヘリ。余
モ亦固ヨリ洋婦ノ側ニテ。喫烟ヲ禁スルノ風習
アルヲ知ルト雖。素ト其不條理ナルヲ以テ。敢
テ之ニ從ハズ。是等ハ公平ニ論スレバ。實ニ失敬
千万ノ口上ト云ハザル可ラズ。婦人ノ側ニテ喫
烟ヲ禁ズルハ。素ト婦人ノ烟ヲ好マザルニヨル
由ナレ。氏。余ハ烟ヲ好ム故。余ガ自由ハ權ヲ以テ
喫スルナリ。婦人ノ好マザレハ。自ラ其席ヲ避

辨論快活懸
河如シ先生
自由ノ煙ヲ喫
自由ノ舌ヲ伸
フ誰カ一字ノ
不字ヲ云ハシ
只口角ノ大家
先生ニ似ガク
情ム

ケテ可ナリ。自ラ好マザルハ故ヲ以テ。人ハ自由
ヲ妨グルハ理。決シテ之レアル可ラズ。且ツ烟ヲ
好マザルハ。豈獨リ婦人ニ止マラシヤ。男子モ亦
之ヲ好マザル者アリ。然ニ男子ノ側ニハ。其好ム
ト否トヲ問ハスシテ之ヲ喫シ。獨リ婦人ノ側ニ
禁ズルハ何ハヤ。實ニ解不可ラザルハ至ト云フ
べシ。且ツ喫烟ノ一若シ人道ニ背クカ。或ハ他人
ノ健康ヲ害スル一ナラバ。余モ亦固ヨリ之ヲ為
サズ。苟モ人道ニ背カズ。人ノ健康ヲ害スル一ナ
ケレバ。豈男女ノ差別ニ由テ。其行止ヲ定ムルノ

自由
民権
神田
平

理アラシヤ。是等ノ如キ固ヨリ小事ナルカ如シ
ト雖凡素ト夫婦同権ノ理ヲ誤リ。夫媚ヲ婦ニ獻
ジテ。其歡心ヲ得ント欲スル痴情ヨリ生ジタル
惡弊ナルト瞭然タリ。宜ナル哉。歐洲貴婦ノ名ヲ
得タル婦人ニシテ。往々犯姦ノ醜行聞クニ忍ビ
ザル者アルニ至ル。豈懼レサル可ケンヤ。目今本
邦夫婦ノ同権漸ク實際ニ行ハレントスルノ機
至ルノ際。有識者能ク此理ヲ知テ。預メ之ヲ防ガ
ザレバ。將來婦權強大ノ弊害。遂ニ制ス可ラザル
ニ至ラン。諸君以テ如何ト為ス。

民選議院ノ時未ダ到ラザルノ論

神田 萃平

軍力直法

民選議院。豈容易ニ起ル可ケンヤ。時節到来セバ
ハ。決シテ起ラズ。且時節到来スト雖凡。其時節
ハ。決シテ喜ブベキ時節ニハ非ザルベシ。抑モ民
選議院建設ノ時節ハ。國体ノ變ジテ。君主專權ヨ
リ君民分權ニ遷ルノ時ナリ。此時ヤ人民ハ權利
ヲ得ルコトナレバ。或ハ不承知アルマシキカ。夫レ
スラ未ダ此度トハ云ガタシ。朝廷ニ於テハ其推
ノ半ヲ譲リ玉フコトナレバ。快ヨク許可シ玉フベ

水東法アリ

キヤ否ヤ。未ダ知ルベカラズ。若シ快ヨク許可シ
玉ハ。大ニ事ノ撻取トナルベケレ。此事故ト
アルベシトモ思ハレズ。一時人心ヲ慰撫セシガ
為ニ與ヘ玉ヘルガ如キハ。他日マダ奪回シ玉フ
トアルベケレハ。兎角未ダ確定トハ云ガタシ。況
ヤ快ヨク許可シ玉ハザルトキハ。人民如何ニ冀
フト雖。セシスベナカラシ。我國人民ノ淳良ナ
ルヲ見レバ。外國人ノ如ク兵ヲ起シ。朝廷ニ迫リ。
戦ヒ勝テ條約ヲ立ルト云フ程ニモ至リ難カラ
シ。故ニ時節到来セザレバ起ラズ而シテ方今ハ

文勢滔々積
水ヲ決スルガ
如ク圓石ヲ
轉スルガ如シ
所謂一氣呵
成ナル者乎
少年輩能ク
此等ノ處ヲ
熟讀領得セ
バオ思自カラ
暢舒筆氣滯
滞ノ病ヲ免ル
ベシ

未ダ到来ハ時節ニ非ザルナリ。概シテ之ヲ論ズ
ルニ。聖賢位ニ在ル間ハ。民選議院起ラズ。敵國外
患ハ迫ラザル間ハ。民選議院起ラズ。外國人ノ金
ヲ貸ス間ハ。民選議院起ラズ。貨幣通用スル間ハ。
民選議院起ラズ。人民増税ヲ甘承スル間ハ。民選
議院起ラズ。然リト雖。世界ハ活物ナリ。何日テ
モ。聖賢位ニ在リト定ムベカラズ。何日テモ。敵國
外患ナシト定ムベカラズ。何日テモ。外國人ノ金ヲ
貸ト定ムベカラズ。何日テモ。貨幣通用スト定ム
ベカラズ。何日テモ。人民増税ヲ甘承スト定ムベ

禮記卷之三

世

カ。ラ。ズ。向。來。時。ア。リ。テ。人。民。増。税。ヲ。甘。承。セ。ズ。楮。幣。通。用。止。マ。リ。外。國。人。民。金。ヲ。貸。サ。ズ。敵。國。外。患。競。ヒ。起。リ。聖。賢。タ。マ。ク。位。ニ。在。ラ。ザ。ル。ア。ラ。ン。万。一。カ。ル。ア。ラ。バ。其。時。ニ。ハ。如。何。カ。ハ。セ。ン。民。選。議。院。起。ラ。ズ。ン。バ。必。ズ。國。亡。ビ。ズ。ン。バ。必。ズ。民。選。議。院。起。ラ。ン。是。レ。我。所。謂。時。節。到。來。ハ。時。ナ。リ。雖。然。是。レ。甚。ク。企。望。ス。ベ。キ。時。ニ。ア。ラ。ズ。故。ニ。時。節。到。來。ス。ト。雖。モ。其。時。節。ハ。決。シ。テ。喜。ブ。可。キ。時。節。ニ。非。ザ。ル。ナ。リ。

駁舊相公議一題

西

首尾重複筆力透徹

主意民選議院ヲ非トスルニ非ズ只其蔽ル所ヲ論ズルナリ故曰云々

余舊參議諸公ハ院ヲ建白シ民選議院ヲ起スル議ヲ讀ミ竊ニ疑ナキ能ハス嘗テ其言ノ蔽ハル所ヲ舉テ之ヲ言ハシ蓋其大意云フ政府ノ強キヲ致スハ天下人民ノ同心ヲ致スニ在リ人民ノ同心ヲ致スハ民選議院ヲ起スニ在リ而シテ所謂議院ノ法ハ西洋ノ成規ヲ取テ之ヲ我ニ施スニ在リ猶瀛車電信ノ法西洋ノ發明ニシテ取テ之ヲ我ニ用ユルガ如シ若シ我自ラ瀛車電信ヲ發明スルヲ待テ然後瀛車ヲ用井電線ヲ架スルヲ得ベシト則政府ハ應ニ手ヲ下スノ事ナカル

ベシト。嗟亦何ゾ其言ノ條理ヲ失スルヤ。蒸車電
信ノ如キ。西洋ニ在リ何等ノ學ニ在テ之ヲ講シ。
何等ノ書ニ於テ之ヲ論ズルヤ。格物ナリ。化學ナ
リ。器械ナリ。亦夫ノ政事ナリ。法律ナリ。教法ナリ
ト同日ニシテ論ズベキカ。余未ダ英ノ引カ。佛ノ
引カト法ヲ異ニシ。日ノ電氣米ノ電氣ト。道ヲ異
ニスルヲ聞カズ。而シテ何ゾ獨リ政事一至於之
ニ反スル。英ノ議院。佛ノ議院ト其法ヲ同ウセズ。
而シテ英ノ政體。米ノ政體ト。天壤相反スルハ何
ゾ。今蒸車ノ如キ。我ハ才學アル者ヲ撰之。之ヲ

西洋ニ遣リ講究セシムルヲ數年ノバ其術ヲ
盡スニ足ラン。而シテ之ニ資本ヲ授ク。之ニ事ヲ
幹セシメバ。則其功ヲ竣ムル也。日ヲ期シテ待ツ
ベシ。乃政事ニ至リ。亦同一轍ニシテ。必ず治功ヲ
見ント欲スルヤ。且今將ニ論者ノ心ニ問ハシ。汝
試ニ一拳石ヲ取テ之ヲ空中ニ擲テ。而シテ其
石汝ノカノ比例ニ從テ上テ天ニ朝セシ。然ルニ
上ル極マレハ必ズ下ル。其下ルヤ。自來ノ速力ヲ
以テセシ。是三尺ノ童モ疑ハザル所ナルベシ。而
シテ今試ニ汝ガ未ダ平素ノ交ホキ一貧人ヲ

今體統家文抄卷二

早

以上一節政事
論之可也

今體俗家文抄卷二
雇之。之。百圓金ヲ附シ。遠ク三千里ハ外ニ至ル。
一物品ヲ買ハシム。而シテ汝乃其人ハ必ズ其
物品ヲ買テ復命スルヲ知ル。石ハ空中ヨリ落
ルト同一ナルヲ期セシム。抑余聞ク西洋政事ノ
學ニ在テハ。人民開化ノ度ヲ審ニシ。時ニ適シ地
ニ適シ。以テ其宜シキヲ制スルニ在ルノミト。是
レ夫ノ物理ノ諸學ト。本來ノ理法ヲ異ニスル者
ナリ。今比シテ之ヲ一ニセント欲ス。西洋ニ在リ
果テ其學アリヤ。又曰ク人民政府ニ對シ。租稅ヲ
拂フノ義務アルハ。則其政府ノ事ヲ與知可否ス

ルノ權理ヲ有ス。是天下ノ通論ナリト。通論ノ二
字何等ノ義ゾ。人民既ニ租稅ヲ出ス。則是一對シ
テ其保護ヲ望ムノ權利ヲ有スベシ。然ニ其之ヲ
參與可否スルノ權利ハ。則其國創メテ政體ヲ建
ル時ニ在テ。之ヲ定ムベシ。今夫レ政府ヲ以テ國
民約束ヨリ成ル者トシテ之ヲ論ス。國民曰ク我
レ我ガ力業ノ半ヲ汝有司ニ出シテ以テ汝ヲ養
フ。汝之カ為ニ我ヲ治メヨト謂フ。是一約束ナリ。
國民或ハ曰ク我レ我ガ力業ノ半ヲ汝ニ出シ以
テ汝ヲ養フ。汝之ガ為ニ我ヲ治メヨ。而シテ汝ヲ

シテ肆縦ナラシメサラシムル為ニ我レ先ツ法ヲ制シテ之ヲ與ヘン。汝此法ニ遵テ我ヲ治メヨト謂フ。是亦一約束ナリ。故ニルウソー氏ノ説ニ據リ。政府ヲ以テ全ク約束ヨリ成ルトスルモ。政府ノ事ヲ與知スルノ權利ハ。租稅ヲ出スト相對スルノ權利ニ非ズ。況ヤ一國ハ政府ハ。必ズ約束ニ興ル者ニ非ズ。古來歴史上ハ沿革其源ヲ異ニスル者アリ。於テカヤ。是ヲ以テ天下ハ大理ヲ究ムルハ。ト謂フ。余未ダ何等ハ學ニ淵源スルヲ知ラズ。又曰ク人民ヲシテ學且智ニ開明ス域ニ

以上一節人民ノ租稅ヲ拂フ者ハ必ズ政事ニ參與スルノ權アリト云フ通論ニ非ハルヲ論ス

進マシムルノ道。即民選議院ヲ立ルニ在リト。又曰ク先其通義權理ヲ保護セシメ。自尊自重天下ト憂樂ヲ共ニスルノ氣象ヲ起サシムト。所謂人民ノ推理ヲ保ヒシムルノ道ハ。何ニカ在ル。之ヲ民選議院ニ在リトスルカ。之ヲ司法ノ任ニ在リトスルカ。上抑壓ノ政ナク。而シテ司法誠ニ其平ヲ得バ。人民ノ權理亦保全スベシ。夫ノ自尊自重天下ト憂樂ヲ共ニスルノ氣象ヲ有スルハ。學識アルノ人ニ望ムヘシ。其學識ヲ起ス。之ヲ文部ノ政ニ求メズシテ。之ヲ議院ヲ開クニ求メントス

以上一節人
民ノ開明ヲ
進ムルハ民選
議院ニ在リト
云ノ非ラ論不

ルハ亦真ニ其道ヲ得ルノ手段ト謂ハシカ。且夫
演劇ノ一技ノ如キモ之ヲ演スルヲ學ビテ而シ
テ後ニ舞臺ヲ開カンカ。又先ツ舞臺ヲ開テ而シ
テ後ニ之ヲ演習センカ。嗟演劇ノ如キ既ニ之ヲ
開クモ客ノ来ル無キハ則止マシテ而シテ縱ヒ演
技其法ヲ失スルモ亦害ナカルハシ。今天下ハ政
事ハ如キ亦是ヲ演習ハ場地トカスベクヤ。凡
此等ノ論諸公身既ニ嘗テ廟堂ノ上ニ在テ自ラ
體驗スル所ナラズ。則余諸公ノ為ニ慨ヒザ
ルヲ得ズ。且夫帝室漸々其尊榮ヲ失ヒ政令百端

朝出暮改政情實ニ成リ賞罰愛憎ニ出ルノ數言
諸公職ヲ去ルノ後年間ニシテ政府之ヲ改ル
能ハザレバ則之ヲ謂フモ可ナリ退ク數月ニシ
テ顧ミテ之ヲ以テ之ヲ政府ニ責ム亦自ラ其面
ニ照スルガ如キハ余竊ニ諸公ノ為ニ取ラハ
心所ナリ然リト雖正方今ノ勢政權ノ歸スル所
上帝室ニ在ラズ下人民ニ在ラズト云フ者ハ則
之アリ之ヲ維持シテ堅牢不拔ナラシメント欲
スル或ハ議院アリテ其權ヲ分ツニ在ルモ亦其
理ナシト謂フ可ラス唯之ヲ民選ニ取リ遽ニ西

此一段別ニ一節ニ拘ハラズ上數節ニ漏ル所ト其ニ一關係ヲ論シ以テ此文ヲ結局ヲ成シ忍ナ又余今云々ヲ以テ一意ヲ生シ深ク此公等ノ舉動ヲ議リ遂ニ其上書中引ルテ結シ余等リ餘情アリ文人ノ骨隨テ得タリト云々

洋下院ノ法ノ如クナランヲ欲スルハ之ヲ時ニ徵シ之ヲ人民開化ノ度ニ質シテ未ダ其肯綮ヲ得タリト謂フ可ラザル者ノ如シ余今敢テ議院ヲ起スノ可否ニ就テ之ヲ論ズルニ非ズ殊ニ其論中偽論甚ダ多キヲ恐ル此等ハ偽論天下人民ノ耳目ヲ煽動シ誤テ一旦偽論家ハ議院立ットアテバ則偽論家偽論家ト相議シ天下ノ事々々乎トシテ亦殆カラザラニカ

今體名家文抄卷之二

偶評今體名家文抄卷之三

其ノ日本史ニ來ルハ其ノ士居光華編選

西洋ノ開化西行スル説

瞿曇氏天竺ニ興リ法ヲ傳ル其法東行シテ吐蕃

蒙古西比利亞滿州暹羅安南支那朝鮮ヲ經テ我

日本ニ入リテ止マル之ヲ佛法ハ東漸ト謂フ亞

細亞ノ民大半其化ヲ被ル孔子ノ道亦東朝鮮ヲ

經テ我國ニ來リ又南交吐安南琉球ニ及ブ豈其

行步東南ニ傾ク者カ、回教亞刺比亞ニ始マリ、
ハ西行シテ土耳其ヨリ、亞非利加洲ノ北岸ニ沿
ヒ、海峽ヲ踰エテ西班牙ニ入り、耶蘇教十戰七敗
績シテ退テ亞非利加ヲ保ツ。一ハ東行シテ波斯
ヲ經テ天竺ニ入り、印度諸島ニ散布ス。西洋ノ文
化ハ、源ヲ天竺ニ發シ、耶蘇教ハ小亞細亞ニ起リ、
希臘羅馬ヲ經テ、歐羅巴全洲ニ流行シ、西亞太臘
海ヲ超テ、南北阿美利加洲ニ跨リ、更ニ太平洋ヲ
渡リ、日本支那ニ來ル。往々亞細亞全洲ニ蔓延セ
シトスルハ、勢アリ。蓋シ其本國故郷大竺小亞細

亞ニ復歸シ、地球ヲ一周シテ、五大洲ニ光被セシ
ル也。夫地球ハ圓體ナリ、東漸西行、豈異テハシ
マ、然ルニ、今姑ク地球運行ハ、地中準シテ、之ヲ論
ズ。ハ、東漸ハ、逆歩ニシテ、西行ハ、順道ナリ。宜ク
ハ、西行スル者ハ、漸ク前行蔓延シテ、東漸スル者
ハ、邊巡趨廻スルヤ、而シテ回教順道而下シテ、却
テ耶蘇教ニ破ラレ、其故如何。曰ク、其道耶蘇ニ劣
ルナリ。初耶蘇教、本邦支那ニ入ルヤ、葡萄牙ヨ
リ來ル。然レ、惟我國ニ於テ嚴ニ之ヲ禁シ、支那國
内兵船亦行ハレズ。近今本邦支那、共ニ歐米各國

所交際ヲ開キテヨリ。西洋ノ開化駿々トシテ入
ル。而シテ其入ルヤ。職トシテ米利堅人ニ是由ル
夫レ歐米ノ開化。固ヨリ一トシテ一トシテ然レ也。
歐ノ學術ハ極テ精微深遠ニシテ米ノ文化ハ猶
麗略淺近ナリ。麗ヨリ密ニ入ル。近ナリ速ニ行ク。
是人性ノ自然ナリ。米ノ書ハ讀易ク。米人ハ説ハ
聽易シ。故ニ本邦支那ハ人。洋學ヲ講求スル多ク
ハ米書ニ依リ。洋説ヲ聽ク亦主トシテ米人ニ頼
ル。蓋シ是レ開化自然ハ流行未從不カレ。或ヒト
曾テ英公使ハ書記官。ナトウ氏ハ語テ曰ク。英學

英米ノ日蘭
相惡ニ相客
レ情景
リ文明ノ片
破ト云々シ
然ニ愛國
根スル所好ス
可シテ外ハ
可カラサルナリ

頗ル日本ニ行ハルト。リトウ氏頭ヲ掉テ曰ク。否
米學ナリト。余恆ニ曰ク。西洋ノ開化ハ順歩而行
シテ。終ニ全地球ニ達スト。蓋シ一百年ハ後ニ至
リ。世人始テ余ガ言ハ欺カバハトヲ知ラント爾
云フ。

保護税ヲ非トスル説 津田 真道

近今我國各港出入品額ノ比較ヲ問フニ。去ル明
治五年ニ於テハ。輸入ノ品物輸出ノ金額ニ踰ニ
ル。一六畧八百萬圓。明治六年ニ於テハ。又輸入ノ
數輸出ヨリ多キ。一七畧七百萬圓ナリト云フ。之

二加フルニ院省使府縣。并ニ平民雇フ所ノ外國
教師ノ給料。概スルニ二百萬圓。國債ノ利子若干
萬圓。此ノ如クナレバ。我國ノ金貨外ニ出テ。歸ラ
ザル者十年ニシテ大數一億圓。然レバ則我國ノ
金銀。十數年ヲ出スシテ。悉皆散失スルニ至ラン。
憂國者曰ク夫レ金銀ハ人民ノ資本ニシテ。國家
ノ由テ以テ立ツ所ナリ。然ルヲ一朝空乏此ノ如
キニ至ル。人民何ニ由テ生シ。國家何ニ由テ立シ。
豈長歎大息ニ任ザランヤ。豫防ノ策設クズンバ
テル可カラズ。昔時歐洲ニ智者アリ。始テ保護稅

ノ法ヲ設立シテ。此弊ヲ濟ヒ。米國ニ於テハ。目今
猶之ヲ襲用セリ。我國今日ノ形勢。國運ヲ維持ス
ルノ術畧。獨保護稅ノ法ニ倣フニ在ルノミト。余
曰ク此說非ナリ。夫レ保護稅ハ保護ニ非スシテ。
却テ一般國民ハ害ヲ招ク惡法ナルハ。西洋各
國經濟學者ハ辨明スル所ニシテ。大抵異論アル
トナシ。但米利堅ニ於テハ。之ヲ是トスル說多シ
ト云フ。蓋米利堅ノ工業歐羅巴ノ精巧ニ比スレ
バ。猶疎ナル所アリ。猶拙キ所アリ。故ニ諸物製造
ノ費用。未タ歐羅巴ノ如ク廉ナルト能ハズ。故ニ

一句其非ヲ
喝破シ然ル
後徐々分條
論辨ヲ文法
ノ見易ク
ク智見易キ
ノ見余カ
此篇ヲ撰入
スル所以ナリ
其論意ハ
ハ方今我帝
國ノ為ニ取
ル所ナリ

舶齋ノ商品ニ高税ヲ賦シテ。内國ノ工場ヲ保護
ス。蓋シ一般人民ノ不利ナルヲ。猶免レザレ氏
往々米國ノ工場ヲ盛大ナラシムル目的ナルノ
。抑モ我國ノ學術工藝。米國ト優劣奈何。蓋シ未
ダ日ヲ同ジウシテ語ルベカラザルナリ。況ヤ歐
洲各國ト馳驅ヲ争フベケンヤ。殆ト兒女子ヲシ
テ偉丈夫ト競鬪セシムルガ如シ。是外國教師ノ
給料二百萬ナルモ。猶已ムベカラザル所以ナリ。
然レハ則我國今日ノ形勢ニシテ。徒ニ米國治國
ノ計ニ倣ハントス。智愚謂ハズシテ知ルベキノ

第一條

。此レトモ世間ニ所謂輕進者流ノ頗ル多キヲ
以テ。亦保保護税説ハ世ニ出ザルニ方リテ。左ニ
聊數則ノ婆言ヲ陳セントス。我國各國ト貿易ノ
條約書ニ税則ヲ附シタリ。故ニ我政府擅ニ保護
税ヲ行フベカラズ。是保護説ノ行フベカラザル
其一ナリ。鉄ハ重量ノ品物ニシテ。運送ノ費用少
カラザルナリ。然ニ今ヤ遙ニ英國ヨリ。數千里ノ
洋上ヲ齎ラシ来ル所ノ鉄價。却テ我國固有ノ鐵
ヨリ廉ナリ。其故唯開墾製鐵ノ術ノ工拙ニ係ル
ノ也。古人曰ク有智無智相距ハト三十里ト云ヤ。

第二條

有術無術相距ハ千里ハ云ハテ、豈帝製
 鐵ハ云ハテ、ヤ百般ハ術工相距ハ度大抵此
 ハ如シ。然ルヲ保護税ノ一法ヲ以テ彼ト其術工
 ヲ競ヒ争ハントス。抑亦思ハザルノ甚シキナリ。
 豈帝尚早キノ云ナラニヤ。是保護税ノ非ナリ。其
 二ナリ。昔時ハ我國人ノ洋品ヲ愛スル。只玩弄ノ
 具ニ過ギザルノ云。今ヤ衣服家什ヨリ。飲食ノ具
 ニ至ルマテ。概木欠クベカラザル需要ノ品物ト
 成レリ。都下ノ如キハ。家屋ノ製尚ホ往々洋風ニ
 變ジタリ。然ニ今羅紗毛布等。諸般欠クベカラガ

第三條

ル洋品ニ重税ヲ賦シ。我國ノ工藝ヲ保護セシト
 ス。我國内未ダ此等ノ工場アルヲハシ。是保護税
 ノ非ナリ。其云ナリ。十年前マテ。國內大概攘夷論
 ヲ唱フルトナリシガ。今ヤ約變シテ國人大抵洋
 風ヲ慕ヒ。洋品ヲ愛シ。遂ニ輸出入ノ差。年々數百
 万ノ多キヲ為スニ至ル。是ハ時運ハ然ラシムル
 所ト雖モ。又在延ハ君子。風ヲ移シ。俗ヲ更ハハ致
 ス所ナリ。而シテ今頃ニ重ク洋品ニ税ハテ。其輸
 入ヲ減ジ。國人ハ所需ヲ充心ヲ妨カントス。是右
 手ニ之ヲ揚ケテ。左手ニ之ヲ抑ハルニ等シ。謂ハ

ナキノ至ト云ヘシ。是其說ノ非ナル其四ナリ。抑
 我國目今ハ形勢。國人纔ニ西洋開化ノ善美ナル
 門牆ヲ窺フノミ。而シテ未ダ開化ノ堂奥ニ進入
 セズ。或ハ之ヲ小兒ノ小學校ニ入ルニ比スベシ。
 未ダ大學ニ入ル生徒ニ喩フベカラズ。夫レ大學
 生徒ト雖。未タ成業ニ至ラザレバ。年々許多ノ學
 費ヲ償フノミニテ。未ダ其利益ヲ得ルヲ能ハズ。
 故ニ我國方今ノ景況ニ於テ。國人ノ智識一層ヲ
 進メバ。輸出入ノ差。從テ一層ヲ加フベシ。豈其減
 スルヲ望ムベケンヤ。是保護稅說ハ非ナル其五

論辨已ニシテ
 忽テ豫防法
 ヲ設ケルノ容
 喙ノ拒ク是
 亦論文中知
 ラザレ可カラ
 サルノ法

ナリ。然ラハ則現今ノ景況ノマ、ニ打捨置カバ
 十數年ノ後ハ。我國内ニ金銀ノ影ガニモ見ル
 能ハザル様ニ成リ行シカト。憂フル人アリ。余曰
 ク憂フルヲ勿レ。余斷シテ其然ラザルヲ保ツナ
 リ。夫レ輸出入ノ權衡時トシテ。或ハ昂低アルヲ
 免レズト雖。其大ナルニ於テハ。決シテ其平均
 ヲ失フヲアルヲナシ。是ハ寒暑風潮等ハ時トシ
 テ。或ハ異變アルヲ免レズト雖。其大ニシテ其平
 均ヲ失フヲナク。必スヤ來往循環シテ其平均ヲ
 復シ。天然ノ規律ニ戻ラザルト同一理ナリ。然レ

バ。則輸出入ノ差奈何シテ。其平均ヲ復スベキヤ。
曰ク或ハ輸出ノ品額増加シ。或ハ輸入ノ數減少
スルノ二道ノ外ナシ。抑我國近今ノ景況。開港後
數年間ハ輸出ノ數。輸入ヨリ多ク。爾後三四年間
輸入ノ數。輸出ヨリ多シ。又此後數年間思フニ又
輸出ノ數。輸入ノ額ニ踰ユベシ。此ノ如ク輸出入ノ
増減循環シテ止マズ。自然ノ天律其間ニ流行シ
テ。決シテ其平均ヲ失フトナシ。此ハ如クニシテ
工藝從テ長シ。開化從テ進ムナリ。決シテ杞憂ヲ
為スニ及バザルナリ。

人民ノ性質ヲ改造スル說
戊辰以來御一新ト言フ。新トハ何ノ謂ソヤ。幕政
ノ舊ヲ去リ。王政ノ新ヲ布ト云フ。トナルベシ。然
ラバ政體ノ一新トイフマデニテ。人民ノ一新シ
タルニ非ズ。政體ハ水ヲ盛レル器物ノ如シ。人民
ハ水ノ如シ。圓器ニ入レバ圓トナリ。方器ニ入レ
バ方トナル。器物變ジ形状ハ換レ氏。水ノ質性ハ
異ナルトナシ。戊辰以後ニ人民ヲ入レタル器物
ハ昔時ヨリ善キ形状ナルベケレ氏。人民ハ矢張

此一段氣力
アリ精神不
文章上更ニ
間然スル所ナ
シ然ニ言語上
稍圭角アリ
英氣アリ道徳
ノ累ヲ為スニ
足レリ況ニヤ
教法ヲ以テ人
ヲ訓導セシト
欲スル論文中
此ノ如クニシテ
可ナランヤ

舊ハ人民ナリ。奴隸根情ハ人民ナリ。下ニ驕リ上
ニ媚ル人民ナリ。無學文盲ハ人民ナリ。酒色ヲ好
ム人民ナリ。讀書ヲ好ム人民ナリ。天理ヲ知
ラズ職分ヲ省リミギル人民ナリ。知識淺短局量
褊小ナル人民ナリ。勞苦ヲ厭ヒ艱難ニ堪ハル人
民ナリ。私智ヲ挾ミ小慧ヲ行フ人民ナリ。勉強忍
耐ハ性ナキ人民ナリ。浮薄輕躁胸中主ナキ人民
ナリ。自立ノ志ナクシテ人ニ依頼スルヲ好ム人
民ナリ。觀察思想ハ性ニ乏シキ人民ナリ。金錢ヲ
用ウルヲ知ラザル人民ナリ。約諾ヲ破リ信義ヲ

重シセガハル人民ナリ。友愛ハ情ニ薄ク合同ニ致
シガタキ人民ナリ。新發明ハ事ヲ務メザル人民
ナリ。以上ノ諸弊ヲ免カル、人民固ヨリ少ナシ
トセズト雖モ押並テ大抵カクノ如シ。此人民ノ
性質ヲ變シ、善良ナル心情高尚ナル品行ニ化セ
シメント欲ヒバ、惟政體ヲ改ムルノミニテハ、其
功驗絶テ之無シ。只圓キモノガ六角トナリ、八角
トナルバカリニテ、其中ノ水ノ質性ハ改タマラ
ズ。故ニ政體ノ改タマルヨリハ、寧ロ人民性質ノ
變ジテ、愈善ク舊染ヲ去リ、日ニ新タニシテ、又日

ニ新タナラフコソ望マシキナリ。方今民選議院
ト云フ世ニ喧スシキハ吉兆トシテ慶スベシ。
蓋シ此議院興ルトキハ日本國ヲ人民總體ニ有
ク之ヲ守護スル心持ニ成ルベク。政府有司ニ依
賴スルノ心改タマルベク。奴隸根性日ニ減ズベ
ク。四方ヨリ人材輩出スルヲ得ベク。人材ヲ一方
ヨリ選舉スル弊次第ニ息ムベキナレバ。民選議
院ハ民心ヲ一新スルノ一助タルハ固ヨリ論
ズルヲ待タズ。但シ茲ニ一ツノ着眼スベキモノ
アリ。民選議院創立シ。之ニ由テ人民縦ヒ幾分ノ

政權ヲトヨリ分チ得タリトモ。矢張從來ノ人民
ナレバ。政事ノ形體少シク變ズルマデノ事ニテ。
人民ノ性質ヲ改造スル主要ノ功效ハアラザル
ナリ。然ラバ人民ノ性質ヲ改造スルハ如何ト
イフニ。其大分ニアルノミ。藝術ナリ。教法ナリ。此
二者車ノ兩輪鳥ノ兩翼ノ如シ。互ニ相資助シテ。
民生ヲ福祉ニ導ビクナリ。藝術ノミ高妙ノ域ニ
進ミタリトモ。惟物質上ノ開化ニテハ。古埃及ビ
希臘ノ時代ノ如ク。風俗ノ壞惡ヲ救正スル蘇ハ
ズ。必スヤ教法ノ盛ニ行ハル。モノアリ。藝術感

化ノ及バザル所ヲ助ク、斯テコソ人心ヲ一新ス
ルノ道、具ハレリト云ベシ。是等ハ誰モ知リタル
トニテ、高論奇談ニ非ズ。然レ氏學士先生ハ中ニ
モ、藝術ハ之ニ注意シテ、教法ヲ以テ度外ニ置キ、
或ハ西國ノ教法ヲ嫌ヒ、惡ムモ、ハテ故ニ極メ
テ平凡、極メテ尋常ナル說ヲ陳ジテ、以テ高明人
諸君子ニ就正ス。苟モ此ヲ外ニシテ、我國人民ヲ
シテ其性質ヲ改造セシメ、歐亞諸國ハ人民高等
ハ度ト平均ナラシムル方法アラバ、愚願クハ安
シシテ、教ヲ受ケ、

禮名家文抄卷三

情實記

人木石ニシテ已マシカ。情實アリ、何ハ欲ハ然ル
ヲ得シヤ。然ラハ則情實ハ性ニ根ナク、若クハ是ハ
即仁徳ハ嫡子ニシテ、義理ハ從兄弟カ婦人ハ仁
ト云フ者、情實ハ假名也。情實ハ男女モ之ヲ有ス
何ソ、獨リ婦人ハ之ヲシテ、情實ノ興ル真レ暮
政ノ末世、維新ノ盛徳ニ當ルカ、賄賂ト妾ト事
ニ當ルカ、然ラハ則小人危険ナル者、真ニ情實
ルカ、小人ハ表裏反覆、權ニ倭シ、勢ニ投ク、何情實
カ之アラバ、然ラバ則姦雄人ヲ欺ク者、真ニ情實

仁徳嫡子云々
造語甚々
妙

禮名家文抄卷三

アルカ。姦雄猜忌殘忍。城郭極々テ深シ。何ノ情實
カ之アラシ。然ラハ則剛毅不屈ノ上。真ニ情實
ルカ。外舉寇ヲ避ケス。内舉子ヲ避ケス。直言抗論
何ノ情實カ之アラシ。蓋シ情實ハ東方君子國ノ
風カ。舊友沈淪。我獨時ヲ得。則其不才ト雖氏之ヲ
撰舉セザルヲ得ズ。彼私事ニ因テ我ニ德アリ。我
公選ニ於テ彼ヲ推サザルヲ得ズ。舊友ノ子弟。因
緣攀援座主ト稱シ門下生ト唱フ。疇昔ヲ追懐ス
レバ。我之ヲ顧リニザルヲ得ス。伴門權貴ニ開ク
託。依下僚ニ委ス。我其不肖ヲ知ルト雖也。狂テ之

ヲ取ラリルヲ得ズ。忠慤能無ク。寒窶依ル無シ。家
族ノ關係ヲ陳シテ。小官ノ補除ヲ請求ス。我情ニ
於テ憫然ナラザルヲ得ズ。妻妾請托ヲ受ケ。墮閣
端緒ヲ起ス。我其汚タルヲ知ルモ。之カ所ヲ為シ
ザルヲ得ズ。凡此類皆情實ノ謂ク。曰ク情實是
小甚シト者アリ。我彼ト情實アリ。彼此ト情實
リ。此某ト情實アリ。其相好スルハ。情實ヲ以テ
其相惡ハヤ。亦情實ヲ以テス。情實ヲ以テ。經緯
織。竟ニ外人ヨリ之ヲ見ハ。一條理ハキ者ニ
似ル。唯其内部ニ居リ。臆怖ニ入リ。始テ其氣脈

此篇能多言
官途交際
情態景况
有破奇語
奇句以奇
思可想發
出此帶消
息亦言言
こ又面白味
あり奇文村
スシ

連絡ハ跡ハカ亦條理アルヲ知ル心シ之ヲ名
テ言フニ言ハレ又情實ト謂フ西子曰ク情實ノ
字義遠ニ之ヲ見レバ薄情ノ反體如シ然レ氏
審ニ之ヲ論スレバ即チ公義ノ反體ナリ
煉化石造ノ説 西 周
余曾テ歐洲ニ遊テ煉化石造ノ家屋ヲ見ル其高
キハ五層六層其廣キハ二町三町而シテ堅牢固
結搖カス可ラズ撓マズ可ラズ蘇然タル一片ハ
石壁四合スル者ハ如シ近日我新橋以北ノ街區
亦此法ヲ用ル其堅牢固結彼ニ如カザル者アリ

嗚呼一句轉折
以下正前混合
文極緻密理
極深遠

石室ヲ以テ
邦國ニ譬
煉化石ヲ以テ
人民ニ譬
石面ヲ以テ
官吏ニ譬
柳々州梓人
傳ト同三天

ト雖氏亦觀ルバキアリ嗚呼何ゾ匠氏ノ巧ニシ
テ獨リ柄政者ノ是ニ類セザルヤ夫レ火石ハ其
質堅緻ニシテ其形方正ナル者ナリ火石能ク堅
緻能ク方正撓マス曲ラズ而シテ匠氏能ク之ヲ
用弁正ニ其堅緻ト方正トヲ利シ累々層々以テ
其高大ヲ致ス今苟モ匠氏ノ石ヲ製スル其實堅
緻ナラズ其形方正ナラズ惟彼ノ石灰ノ力ヲ恃
ミ強壓力逼シテ以テ其累々層々ヲナサント欲
セバ其石盪磨跳轉正角漫磨シ廉稜消斂シ變ジ
テ將ニ團々ナル者トナラントス則匠氏亦何ヲ

此段孟子巨
室ヲ為ス必
一師ヲシテ大
木ヲ求メシ
シノ章ヲ學
テ絶_其
轍踏ノ跡ヲ
見ズ

恃ミテ彼ノ高堂大厦ヲ構スルヲ望マンヤ。今有
司ニシテ其下ニ遇スル、強壓力逼、以テ各個人々
ノ權分ヲ虧損ス、則人々己カ權分ヲ存保スル丁
能ハズ、遂ニ變シテ圓轉流活、以テ俗ヲナスニ至
ラントス。苟モ圓轉流活、一タビ俗ヲナスニ至レ
バ、間亦剛毅強直ナル者アリト雖モ、亦碌々世ト
相推移セザルヲ得ス、猶數十方正石ノ彼ノ團々
ナル者ト相盪磨スルカ如シ、幾何カ其レ其廉角
ヲ存スルヲ得ニヤ、況ヤ有司ノ人ヲ遇スル其推
分ヲ劇損シ、且姑ク我が意ニ隨テ汝が方正ヲ托

ケヨト云ハハ、猶匠氏ハ石ノ方正ヲ利セス、擅ニ
槌斷斧斫シテ、以テ其用ニ適セントスルガ如シ、
亦焉_カ其槌斷斧斫ノ處、異日壞崩滅裂ハ地タル
ニ非ザルヲ知ラニヤ、夫レ堅緻方正ハ火石ノ性
ナリ、人民ノ權分ヲ守ルハ、亦人ノ性ナリ、今苟モ
一旦其性ヲ變ジ、石ヲシテ團々ナラシメ人ヲシ
テ圓活ナラシメハ、匠氏其巧ヲ盡シ、柄政者其能
ヲ窮ニト雖氏、亦將ニ其力ヲ施スノ地亡カラシ
トス、今夫レ數丈ノ壁間、一個ノ火石脆疎ニシテ、
窳脱スレバ、餘石ノ堅緻ナル者、亦從テ墮ツ、則支

離滅裂。亦壁ノ一面ニ及バントス。故ニ面氏ハ一石ノ質ヲ輕ニセズ。柄政者ハ匹夫ノ權ヲ慢ラズ。以テ能ク其功ヲ成ス。況ヤ本邦ノ如キ。火石素ヨリ脆疎ニシテ。人民ノ權分殊ニ薄弱ナルヲヤ。維新ノ初。制度簡疎。人々頗ル振フノ氣アリ。今日ニ至リ。文恬武熙。萎靡復風ヲ成ス。況ヤ百度更張シ。節目頗ル備ハル。從テ強壓力逼ノ蔽生セザルヲ得ズ。煉火石造ノ説ヲ作ル。

人ニ貴賤貧富ノ別ナキ説

福澤諭吉

千口名言造
物日ノ本意
ヲ得多ク上云

天ハ人ノ上ニ人ヲ造ラズ。人ノ下ニ人ヲ造ラズ。トイヘリ。左レバ天ヨリ人ヲ生ズルニハ。萬人ハ萬人皆同ジ位ニシテ。生レナガラ貴賤上下ノ差別ナク。萬物ノ靈タル身ト心トノ働ヲ以テ。天地ノ間ニアアル萬ノ物ヲ資リ。以テ衣食住ノ用ヲ達シ。自由自在。互ニ人ノ妨ヲナサズシテ。各安樂ニ此世ヲ渡ラシメ給フノ趣意ナリ。左レドモ今廣ク此人間世界ヲ見渡スニ。賢キ人アリ。愚ナル人アリ。貧シキモアリ。富メルモアリ。貴人モアリ。下人モアリテ。其有様雲ト坭トノ相違アルニ似タ

遠ク聖經賢傳ヲ引カズ近クイロハカルタヲ引キ實語教等ヲ引ク乃先生ノ先生タル所以ニシテ余ノ尤心服スル所以ナリ

ルハ何ゾヤ、其次第甚ダ明ナリ、實語教二人學バザレバ、智ナシ、智ナキ者ハ愚人ナリトアリ、左レバ賢人ト愚人トノ別ハ、學ブト學バザルトニ由テ出来ルモノナリ、又世ノ中ニムヅカシキ仕事モアリ、ヤスキ仕事モアリ、其ムヅカシキ仕事ヲスル者ヲ、身分重キ人ト名ヅケ、ヤスキ仕事ヲスル者ヲ、身分輕キ人トイフ、都テ心ヲ用井心配スル仕事ハムヅカシクシテ、手足ヲ用ルカ役ハヤスシ、故ニ醫者、學者、政府ノ役人、又ハ大ナル商賣ヲスル町人、夥多ノ奉公人ヲ召使フ大百姓ナド

學者未タ必ス貴人富人不マズ貴人富人未ダ必ス學

ハ、身分重クシテ貴キ者トイフベシ、身分重クシテ貴ケレバ、自カラ其家モ富テ下々ノ者ヨリ見レバ、及ブベカラザル様ナレドモ、其本ヲ尋レバ唯其人ニ學問ノカアルトナキトニ由テ、其相違モ出来タルノミニテ、天ヨリ定タル約束ニアラズ、諺ニ云ク、天ハ富貴ヲ人ニ與ヘズシテ、之ヲ其人ノ勸ニ與ルモノナリト、左レバ前ニモ云ヘル通り、人ハ生レナガラニシテ、貴賤貧富ノ別ナシ、唯學問ヲ勤テ物事ヲ能ク知ルモノハ貴人トナリ、富人トナリ、無學ナル者ハ貧人トナリ、下人ト

ヲ勤々事物ヲ
能ク知ル人ナ
ラズ今日ノ貴
人ヲ見ヨ今日ノ
華族ヲ見ヨ歎
息々々

ナ。ル。ナ。リ。

開化ノ進ムハ政府ニ因ラズ人民ノ衆論ニ

因ルノ説譯バツクル氏ノ英國開化史ヨリ抄

箕作麟祥

歐洲各國開化ノ進歩ハ論者徃々政府ノ智ヲ以
テ新ニ法律ヲ制シ、弊害ヲ除クニ因ルト言ヒ、其
説ヲ主張スル者多シト雖、今史乘ヲ讀ミ、詳カ
ニ之ヲ考フレハ、此等ノ説ハ畢竟無稽ノ妄言ニ
屬シ、信據ス可キニ非サルナリ、何トナレハ、凡ソ
國家ノ要路ニ居リ、權ヲ執リ政ニ任スル輩ノ如

近世世界ノ
物中華聖蹟
那破烈翁ニ
人ヲ除クノ外
此世ヲ造ル人
ト云ベカラズ

キ、抑亦何人ゾヤ、要スルニ皆其國ニ生レ其書ヲ
讀ミ、其習慣ニ染ミ、其偏見ニ狃レ、其範圍中ニ局
束セラル、人タルニ過ギザレバ、如何ニ警敏銳
材ノ名アリト雖、顧ミルニ亦此世ノ為ニ造ラ
レシ者ニシテ、此世ヲ造リシ者ニ非ズ、故ニ其人
ノ事業タルモ、亦唯開化進歩ノ末ニ居リ、其本原
ヲ為スニ足ラス、而シテ此ニ之レガ証ヲ舉グル
ニ、凡ソ今古ノ史乘ニ載スル各國ノ大改革ヲ見
ル、未タ一モ當時執權輩ノ創起首唱ニ因ル者ア
ラズ、舉テ皆其國人民ノ衆論ニ迫ラレ、已ムヲ得

ガルニ出ツルニ在レバ、以テ言ノ誣ヒサルヲ知
ル可ク、因テ更大ニ之ヲ論ゼントス。夫レ國ニ弊
害アルヤ、當初或ハ有識ノ士アリ、衆ニ先チ、恐レ
ス、諱マズ、其弊害ヲ除キ、改革ヲ為スノ急務タル
ヲ論スト、雖氏政府ハ敢テ之ヲ聽カズ、依然其舊
弊ニ安シテ、數十百年ノ久キヲ過キ、衆論沸騰、真
ニ其已ム可カラザルニ及ビ、然ル後ニ初メテ之
レカ改革ヲ為スハ、獨リ冥頑不靈ノ政府ノ以
テ然リト為スニ非ズ、廣詢咨謀、周ク之ヲ衆ニ取
リ、以テ其言ヲ容ルハ、文明諸國ノ政府ト雖氏、尚

ホ亦然ラザルハナシ、故ニ彼ノ改革ヲ為シ、國ヲ
益スルニ誇ル、執推輩ト雖氏、多クハ皆其生ル、
時、既ニ數十年ノ前ニ生ル、成論ヲ取テ、之ヲ傳
誦シ、其事業タルモ、槩ネ亦教ヲ先師ニ受ケ、其示
授セシ成訓ニ因テ更ニ其聲ヲ大ニシ、嘖々之ヲ
辨明スルニ過キズ、而シテ又國ノ改革者タルヲ
其身ニ自負スル輩ノ如キハ、畢竟當時輿論衆議
ノ已ム可カラザルヲ知リ、以テ之ヲ行フニ在リ、
譬バ、猶積水ノ潰決シ、其勢ハ禦ク可カラザルニ
至リ、流ニ順テ泛然浮游スル者ハ如シ、然リ而シ

テ唯其改革者ノ稱譽ス可キハ、當時特ニ缺ク可
カラザル事由ノ既ニ瞭如タル國家重要ノ改革
ニ、猶抗拒スル者多キニ當リ、危険ヲ辭セズ、機ヲ
見テ斷然衆論ヲ容レ、之ヲ實際ニ行フニ在ルノ
ミ、而シテ今此ニ其例ヲ求ムレバ、各國古今ノ史
乘中、固ヨリ枚擧スルニ遑アラスト雖、試ニ其
最モ著ルシキ者ヲ擧ゲテ之ヲ言ハシ、近來英國
ニ於テ、彼ノコルンノウ穀物ノ價自國ニ於テ貴
キ時ニ非レバ外國ヨリ之ヲ輸入スル之ヲ輸入スルヲ廢セシガ如キハ、目今英國ノ人
民、普ク其益ヲ知り、敢テ異議スル者アラザレド、

之レガ改革ヲ為スニ及ビシ其方法ニ至テハ、人
猶未ダ明ニ之ヲ解セズ、而シテ世ノ史乘ヲ詳讀
セザル者ハ、必ず將ニ言ハントス、曰ク此改革ハ
全ク議院ノ力ニ出テ、或ハアソコル、コル、ノウリ
トガコルノウリルコルノウリ説ヲ主張セシ社中ノ力ニ因ルト、
然レモ仔細ニ此改革ノ緣由ヲ講究スレバ、蓋シ
此改革ハ初メ瑞ヲ千七百年代ニ發シ、穀物輸入
ヲ限制スル其法ノ弊害ハ當時ニ在テ經濟學者
既ニ專ラ之ヲ辨論シ、爾來其書ヲ讀ム者、皆其論
ノ正久、其言ノ是ナルヲ許認セザルナキニ因レ

文佳ヲ求メ
カシテ自ラ佳
此是ナリ

バ。願ニルニ政府議院社中ハ如キハ畢竟至強至
大ハ抗拒ス可カラサル。國內衆論ハ勢カニ。旋轉
移動セラレタル器械ニ等カ。故ニ其コルニ口ウ
ヲ廢スルハ曾テ此黨ニ便スルガ為ニ非ズ。又彼
ハ黨ニ益スルガ為ニ非ズ。國民ハ智識ニ因リ以
テ致ス所ナレバ人智ハ漸ニ進ムニ從ヒ此法ハ
終ニ廢ス可キハ固ト自然ハ勢ニ屬シ。當時社中
ハ其智識ヲ擴ムル功ナキニ非ズ。議院ハ其智
識ヲ容ルニ之ニ順フ功ナキニ非ズ。雖モ要ス
ルニ其功ハ人民智識ハ進ムニ因リ已ム可カラ

結末重テ題
言ヲ襲用ス
是古文多ク
之アル法ニシ
テ韓非最モ
多シ少年輩
能ク此法ヲ
用キハ言論
支離ノ瘡多
ク神田先生民
選議院時未
カ至ラ其論

ガルニ及ヒ改革ヲ僅カニ一歩早カラシメシ
ニ過キス而シテ又近年行ハレシレヲアルムビ
ルヲ議員選舉ノ制度及ヒ其他ノ改革ノ如キモ亦
皆前ニ論スル所ト敢テ異ナル者アルニ非ズ。故
ニ曰ク國ハ舊弊ヲ洗滌シテ以テ開化ヲ進マシム
ルハ政府ハ力ニ非ズ。人民ハ衆論ニ因ル者ナリ。

文法併上見

今體名家文抄卷之三

今體名家文抄卷之三終

[Faded vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side]

010190527927

48 13092

